

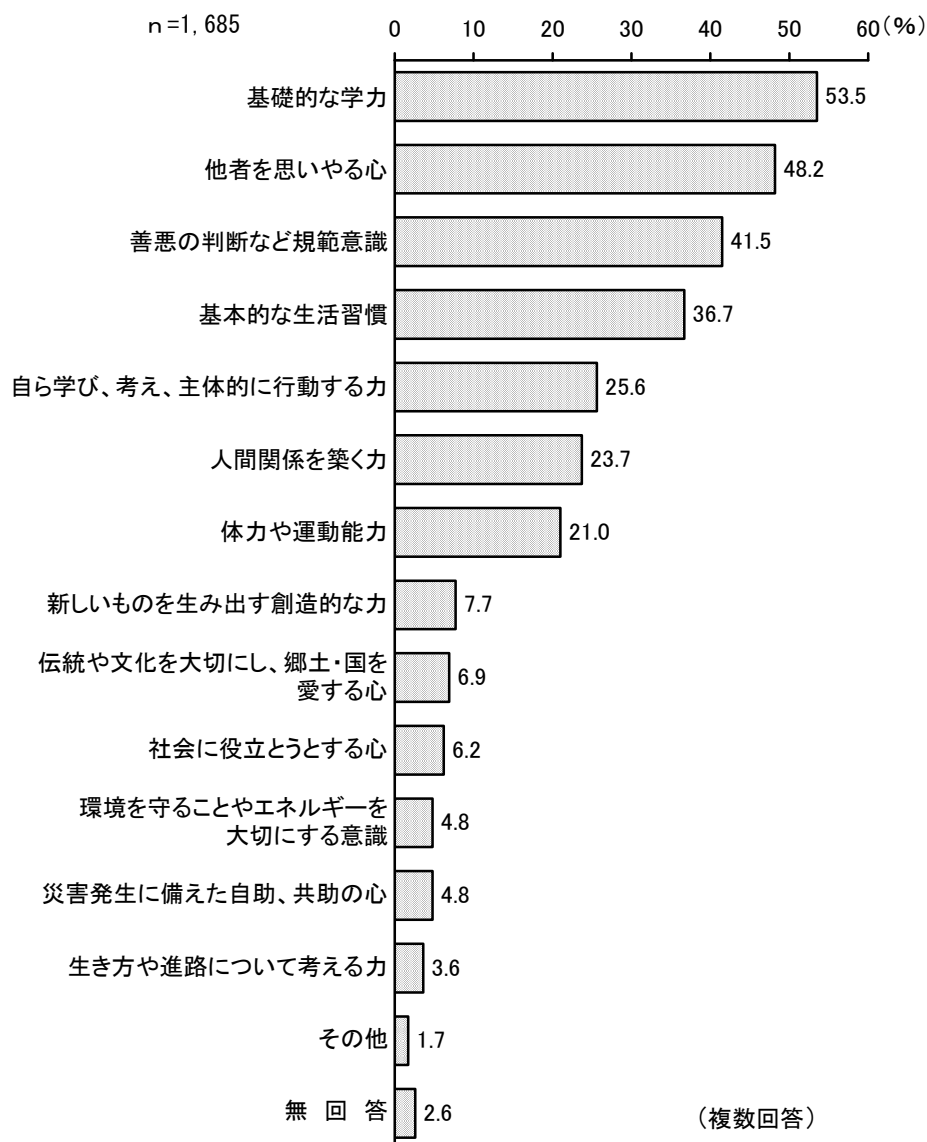
6. 小・中学生の教育について

6-1 小学生に必要な教育

◇「基礎的な学力」が5割強

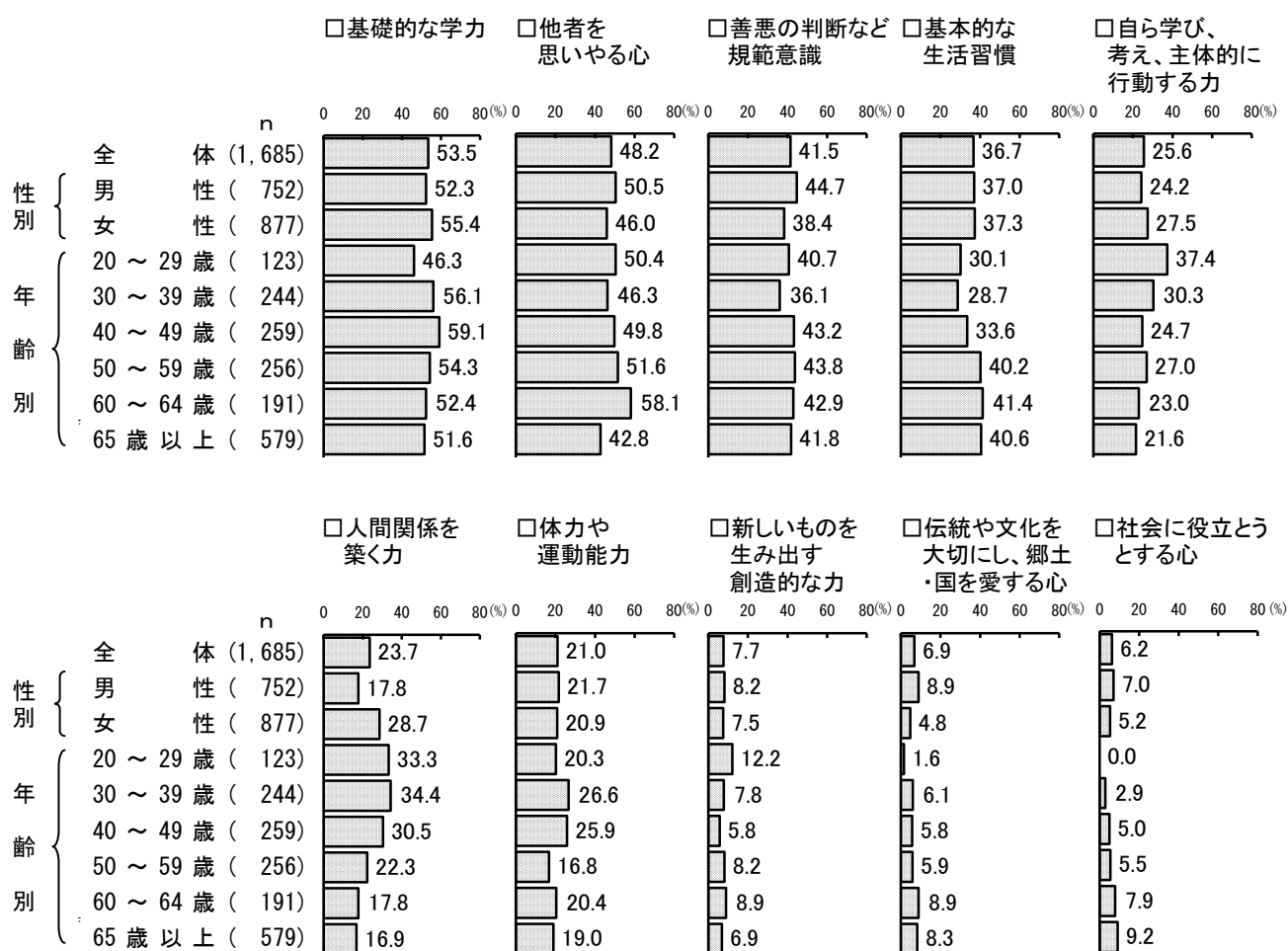
問10 あなたは、小学生にどのようなことを身につけさせる教育が必要であると思いますか。
あなたの考えに近いものを選び○をつけて下さい。(○は3つまで)

図 6-1-1



小学生にどのようなことを身につけさせる教育が必要であるかを聞いたところ、「基礎的な学力」が5割強（53.5%）と最も高く、次いで「他者を思いやる心」（48.2%）、「善悪の判断など規範意識」（41.5%）、「基本的な生活習慣」（36.7%）と続いている。（図 6-1-1）

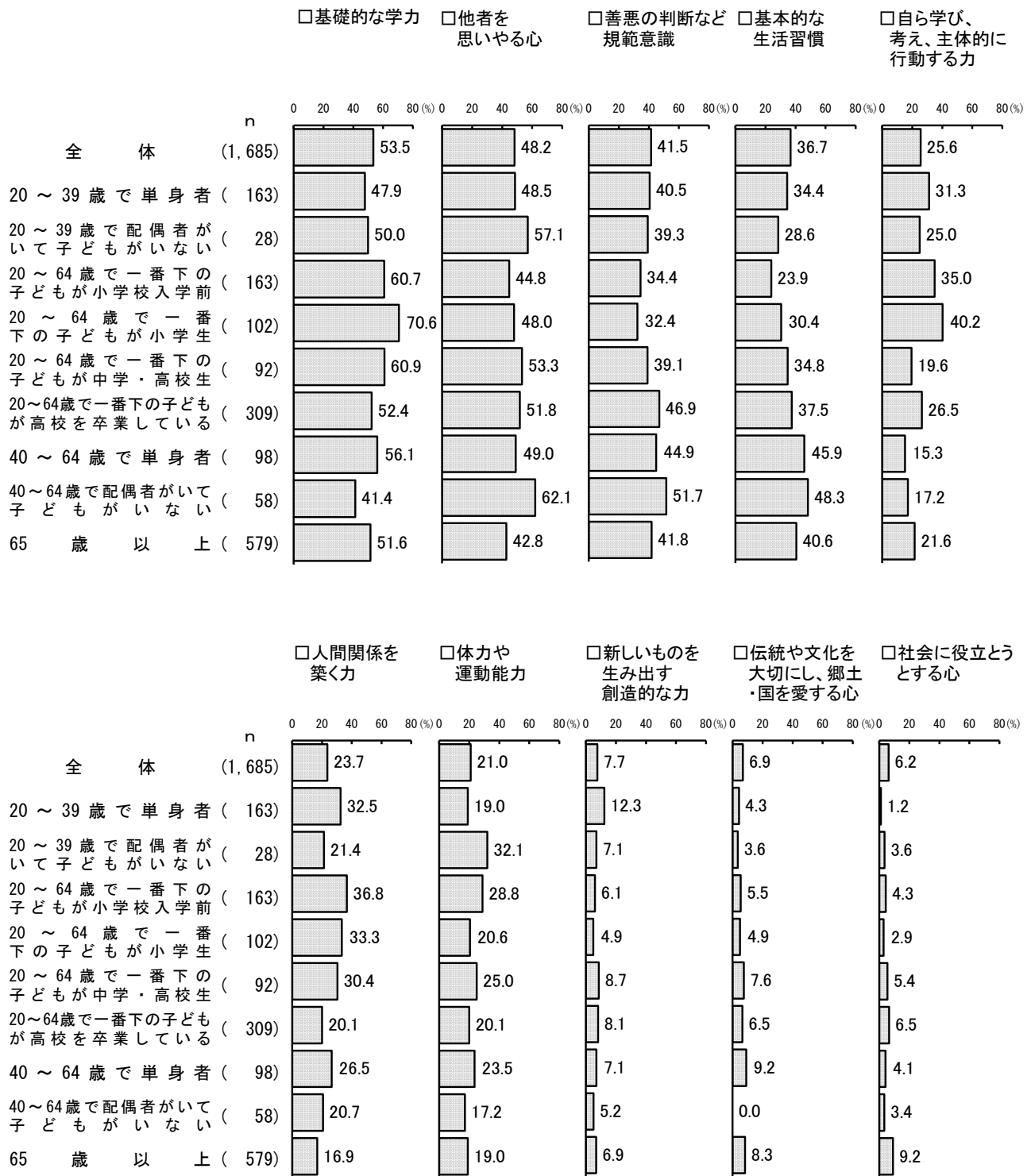
図 6－1－2 小学生に必要な教育－性別・年齢別（上位10項目）



性別にみると、「人間関係を築く力」は女性が10.9ポイント高くなっている。一方、「善悪の判断など規範意識」は男性が6.3ポイント高くなっている。

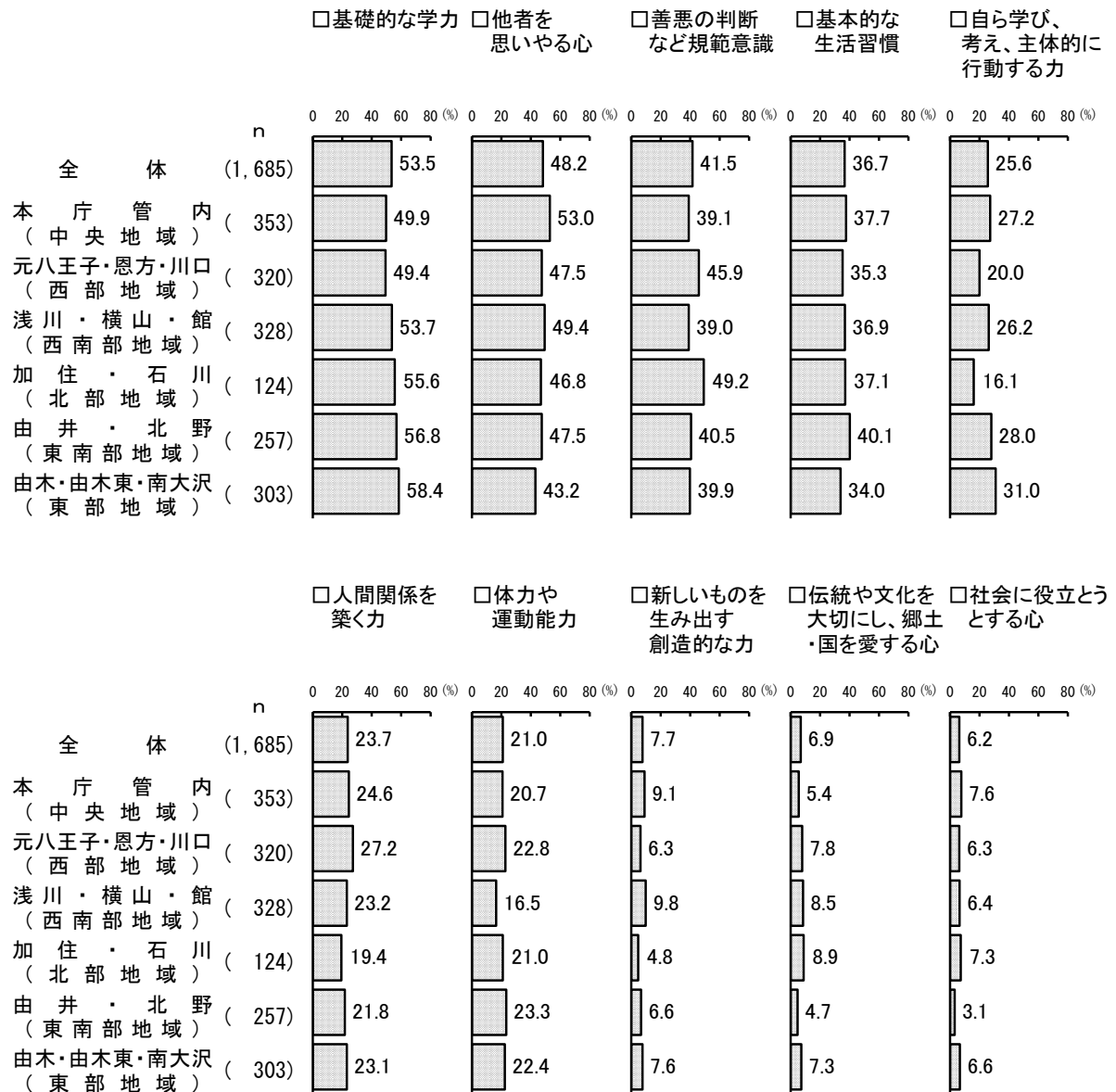
年齢別にみると、「他者を思いやる心」は60～64歳で6割近く（58.1%）と高くなっている。また、「自ら学び、考え、主体的に行動する力」は20～29歳で4割近く（37.4%）と高くなっている。（図6－1－2）

図 6-1-3 小学生に必要な教育－ライフステージ別（上位10項目）



ライフステージ別にみると、「基礎的な学力」は“20～64歳で一番下の子どもが小学生”で約7割（70.6％）と高くなっている。また、「他者を思いやる心」は“40～64歳で配偶者がいて子どもがいない”で6割強（62.1％）と高くなっている。（図6-1-3）

図6-1-4 小学生に必要な教育—居住地地域別（上位10項目）



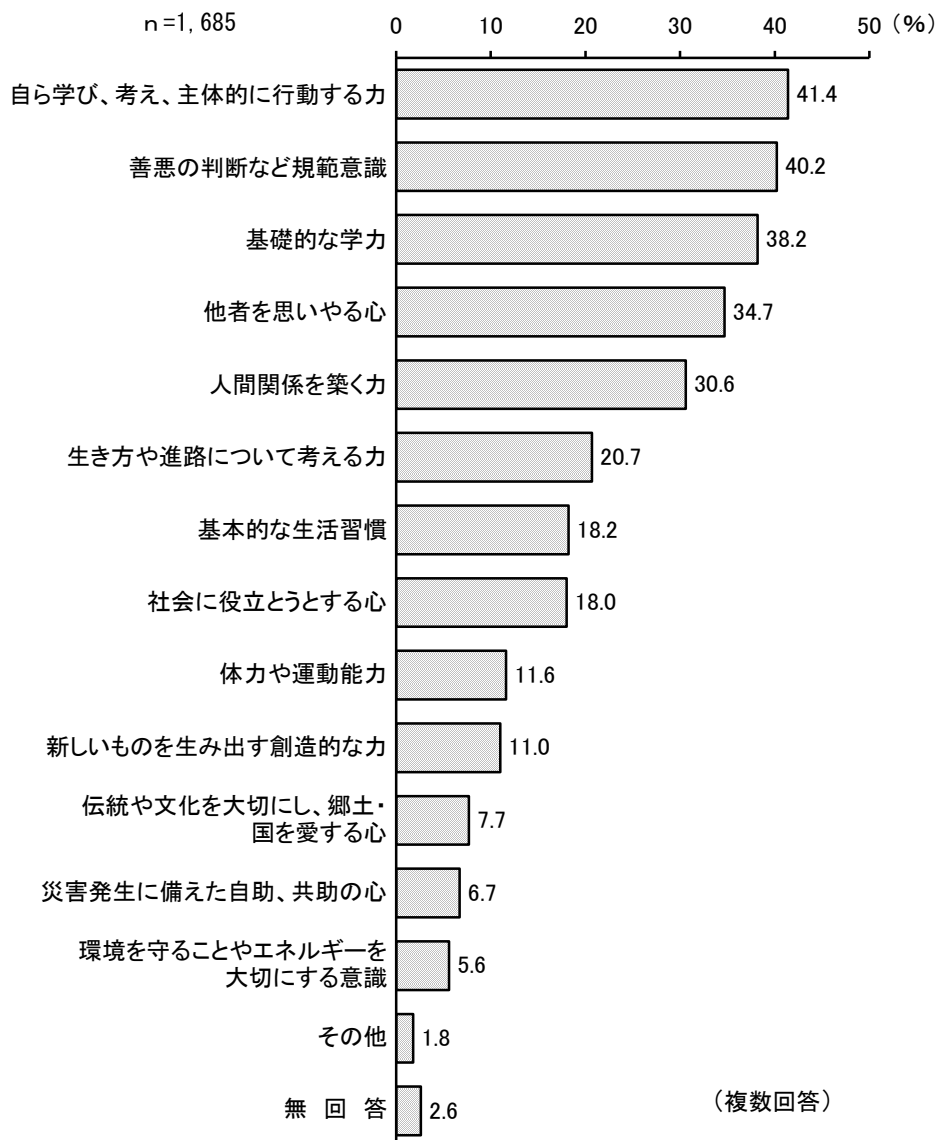
居住地域別にみると、「基礎的な学力」はどの地域もおおむね5割台となっている。また、「他者を思いやる心」はどの地域もおおむね4割台となっている。（図6-1-4）

6－2 中学生に必要な教育

◇「自ら学び、考え、主体的に行動する力」が4割強

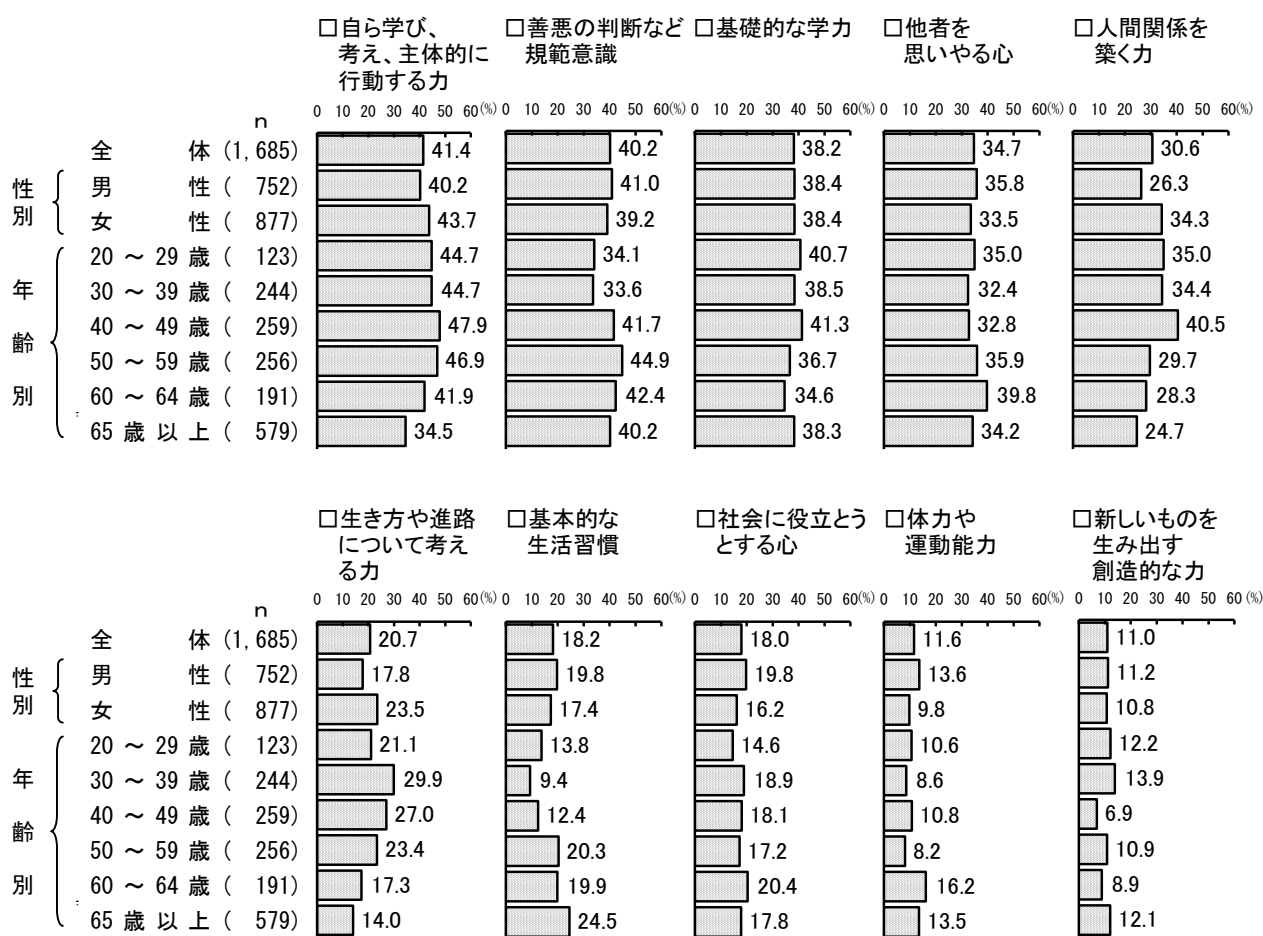
問11 あなたは、中学生にどのようなことを身につけさせる教育が必要であると思いますか。
あなたの考えに近いものを選び○をつけて下さい。(○は3つまで)

図6－2－1



中学生にどのようなことを身につけさせる教育が必要であるかを聞いたところ、「自ら学び、考え、主体的に行動する力」が4割強（41.4%）と最も高く、次いで「善悪の判断など規範意識」（40.2%）、「基礎的な学力」（38.2%）、「他者を思いやる心」（34.7%）、「人間関係を築く力」（30.6%）と続いている。（図6－2－1）

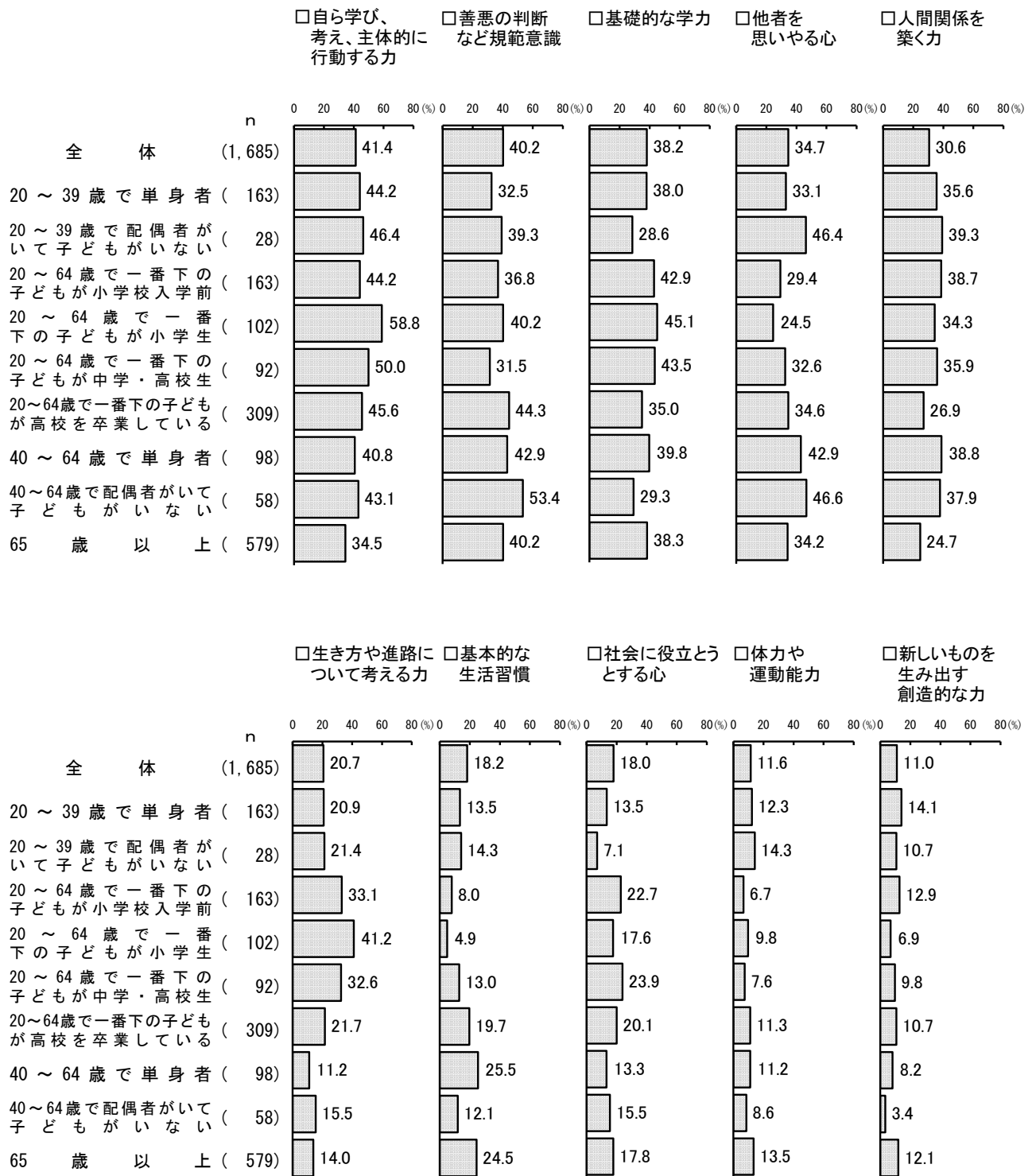
図6-2-2 中学生に必要な教育－性別・年齢別（上位10項目）



性別にみると、「人間関係を築く力」は女性が8.0ポイント高くなっている。一方、「体力や運動能力」は男性が3.8ポイント高くなっている。

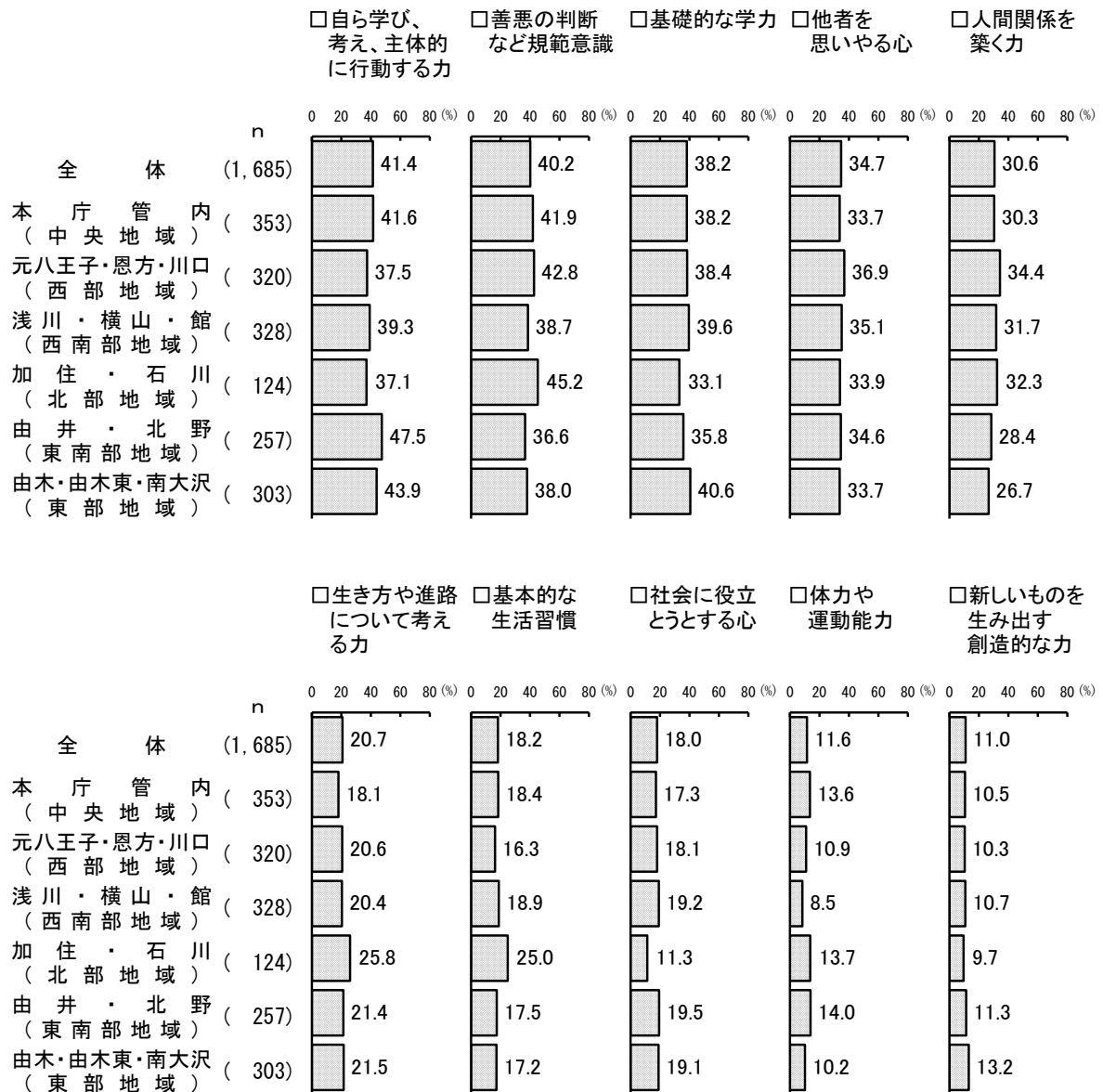
年齢別にみると、「人間関係を築く力」は40～49歳で約4割（40.5%）と高くなっている。また、「生き方や進路について考える力」はおおむね年代が下がるにつれて割合が高く、30～39歳で3割弱（29.9%）と高くなっている。（図6-2-2）

図6-2-3 中学生に必要な教育－ライフステージ別（上位10項目）



ライフステージ別にみると、「自ら学び、考え、主体的に行動する力」は“20～64歳で一番下の子どもが小学生”で6割近く（58.8%）と高くなっている。また、「善悪の判断など規範意識」は“40～64歳で配偶者がいて子どもがいない”で5割強（53.4%）と高く、「生き方や進路について考える力」は“20～64歳で一番下の子どもが小学生”で4割強（41.2%）と高くなっている。（図6-2-3）

図6-2-4 中学生に必要な教育—居住地域別（上位10項目）



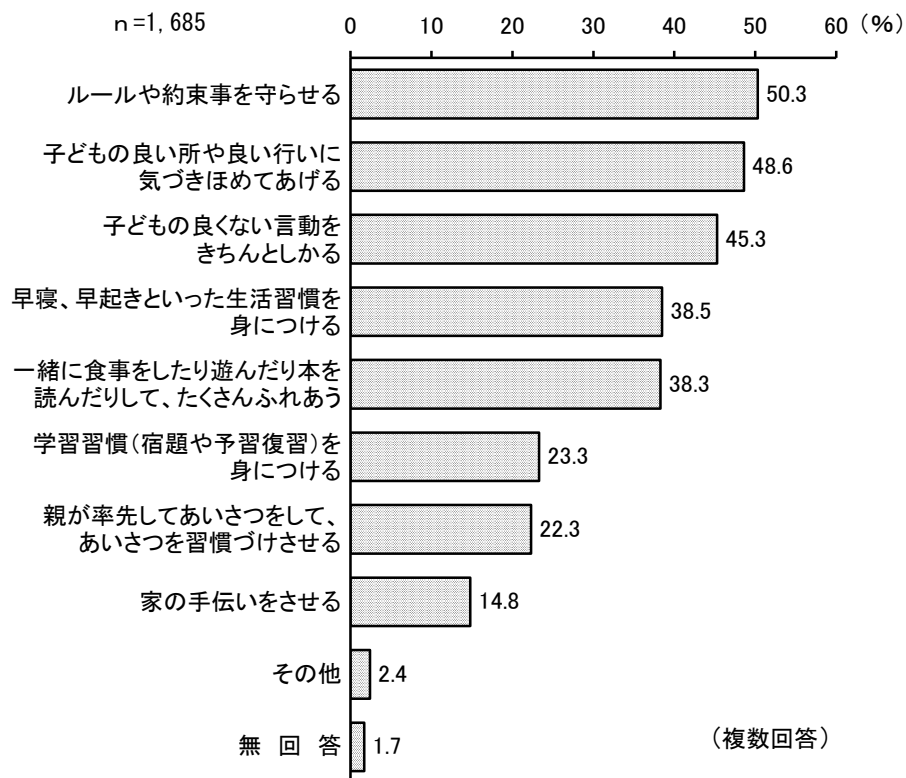
居住地域別にみると、「自ら学び、考え、主体的に行動する力」、「善悪の判断など規範意識」、「基礎的な学力」はどの地域もおおむね4割前後となっている。（図6-2-4）

6－3 家庭教育で重要なこと

◇「ルールや約束事を守らせる」が約5割

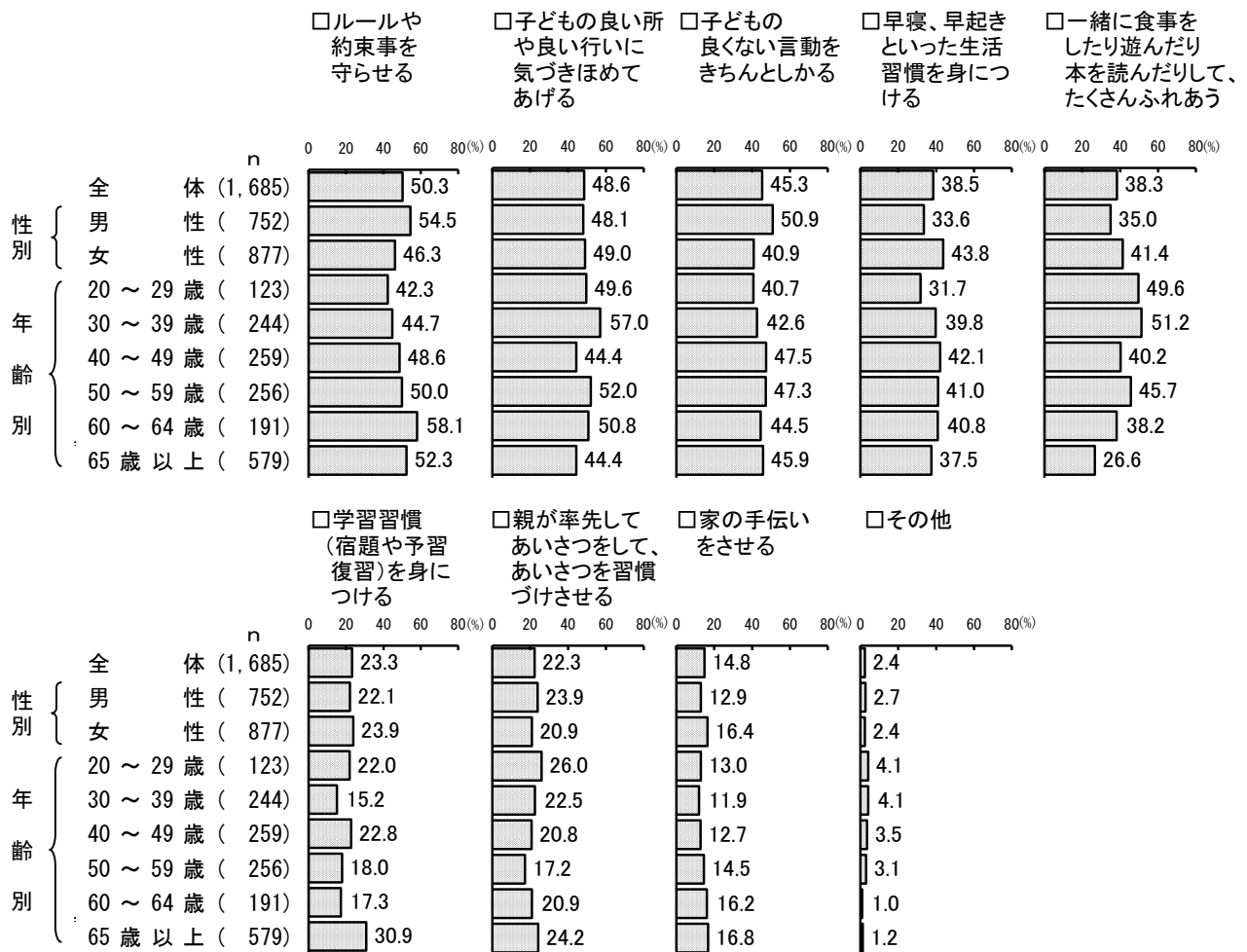
問12 あなたは、家庭教育においてどのようなことが重要だと思いますか。あなたの考えに近いものを選び○をつけて下さい。(○は3つまで)

図6－3－1



家庭教育において重要なことを聞いたところ、「ルールや約束事を守らせる」が約5割(50.3%)と最も高く、次いで「子どもの良い所や良い行いに気づきほめてあげる」(48.6%)、「子どもの良くない言動をきちんとしかる」(45.3%)、「早寝、早起きといった生活習慣を身につける」(38.5%)、「一緒に食事をしたり遊んだり本を読んだりして、たくさんふれあう」(38.3%)と続いている。(図6－3－1)

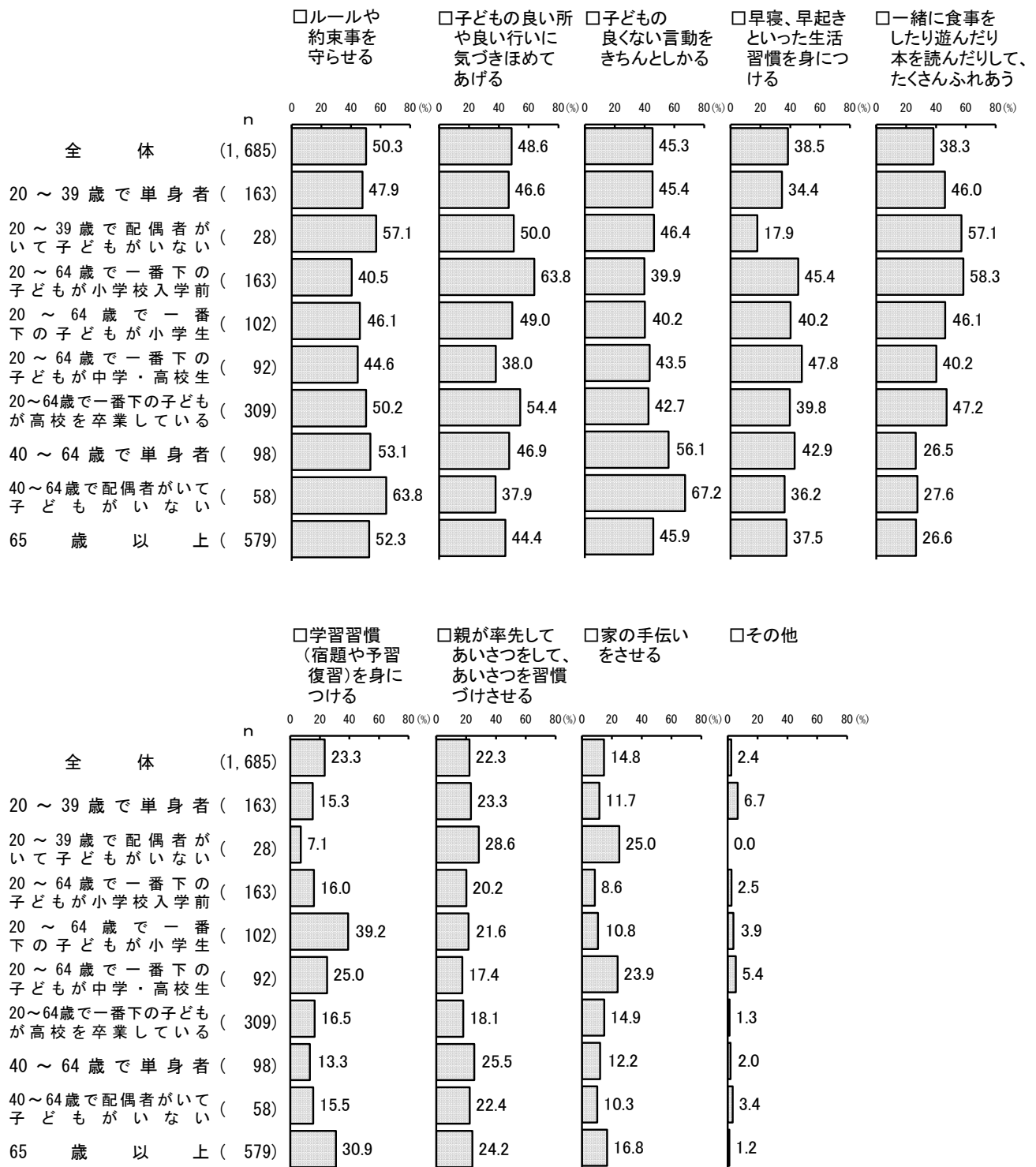
図6-3-2 家庭教育で重要なこと－性別・年齢別



性別にみると、「子どもの良くない言動をきちんとしかる」は10.0ポイント、「ルールや約束事を守らせる」は8.2ポイント、それぞれ男性が高くなっている。一方、「早寝、早起きといった生活習慣を身につける」は女性が10.2ポイント高くなっている。

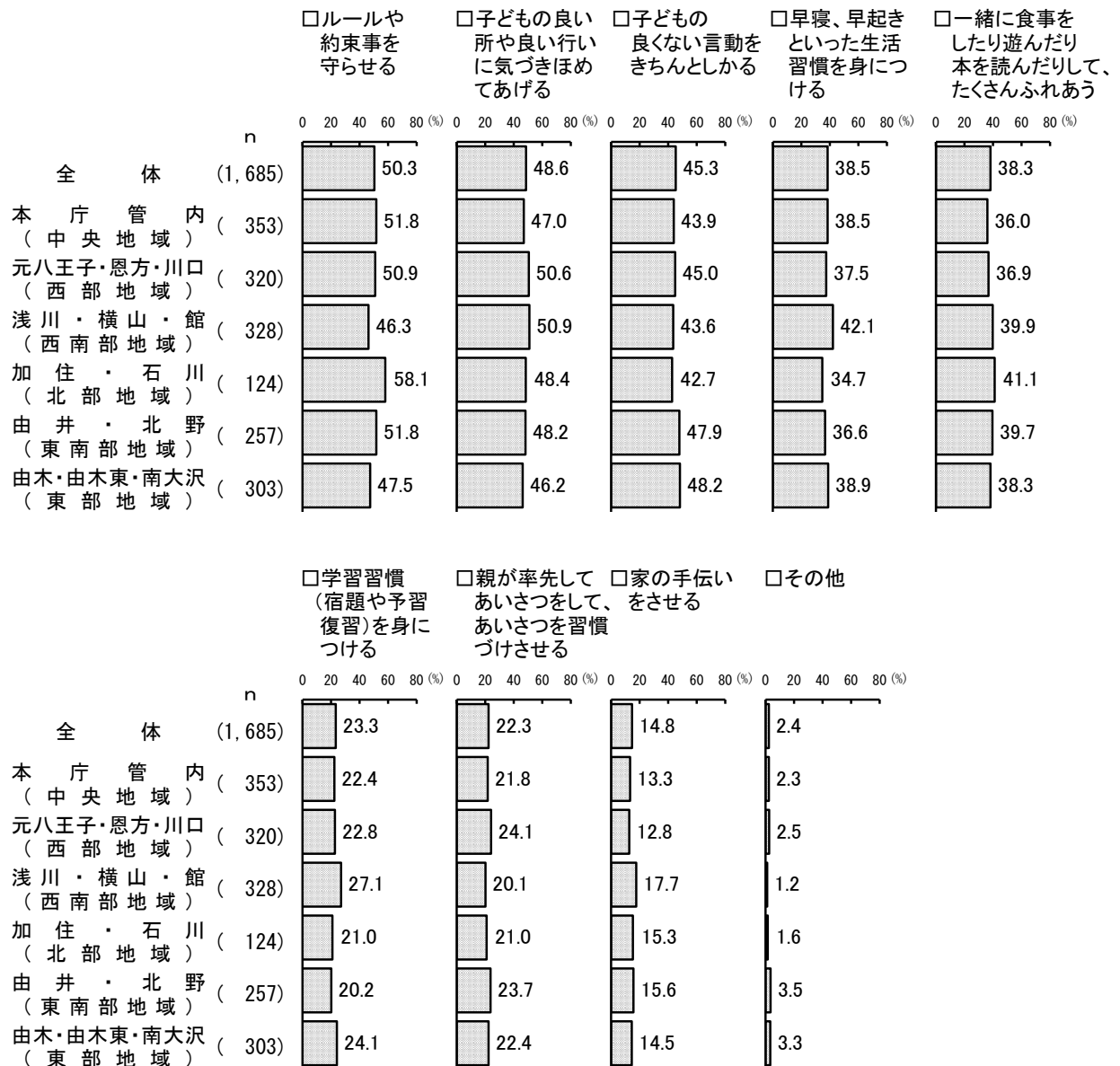
年齢別にみると、「ルールや約束事を守らせる」は60～64歳で6割近く（58.1%）と高くなっている。また、「子どもの良い所や良い行いに気づきほめてあげる」は30～39歳で6割近く（57.0%）と高くなっている。（図6-3-2）

図6-3-3 家庭教育で重要なこと—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「子どもの良くない言動をきちんとしかる」は“40～64歳で配偶者がいて子どもがいない”で7割近く（67.2％）と高くなっている。また、「子どもの良い所や良い行いに気づきほめてあげる」は“20～64歳で一番下の子どもが小学校入学前”で6割強（63.8％）と高く、「学習習慣（宿題や予習復習）を身につける」は“20～64歳で一番下の子どもが小学生”で4割弱（39.2％）と高くなっている。（図6-3-3）

図6-3-4 家庭教育で重要なこと－居住地域別



居住地域別にみると、「ルールや約束事を守らせる」は加住・石川（北部地域）で6割近く（58.1%）と高くなっている。また、「早寝、早起きといった生活習慣を身につける」は浅川・横山・館（西南部地域）で4割強（42.1%）と高くなっている。（図6-3-4）

6－4 小中一貫教育の周知度

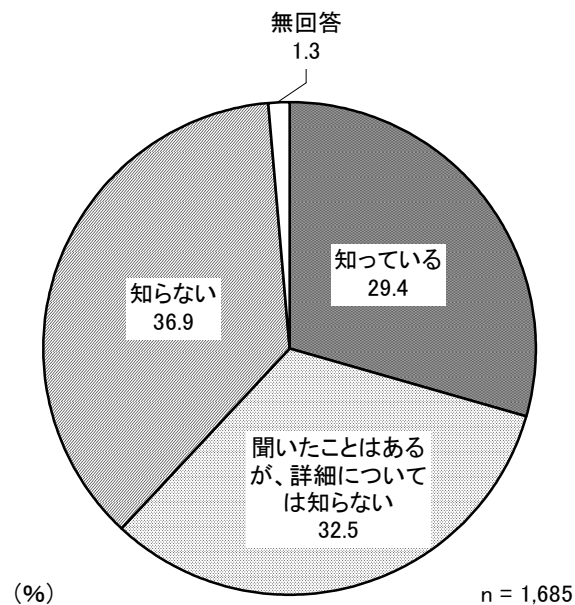
◇《知っている》が6割強

問13 あなたは、市が取り組んでいる小中一貫教育についてご存知ですか。あてはまるものに○をつけて下さい。(○は1つだけ)

※小中一貫教育とは・・・

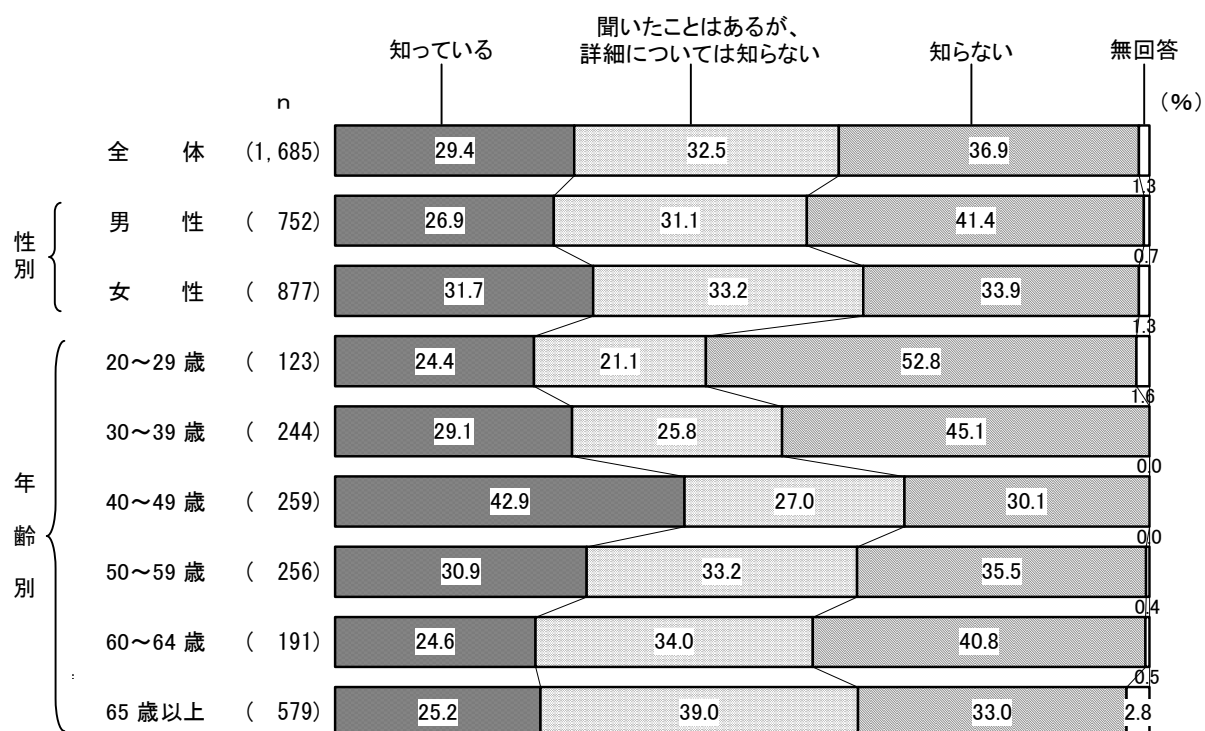
義務教育9年間を見通した教育活動を通して、児童・生徒の学力向上を図り、社会性・人間性豊かな児童・生徒の育成を目指す取り組みで、市内すべての小・中学校で取り組んでいます。小学生が中学校の部活動を体験したり、中学校教員が小学生に授業したり、小学校教員と中学校教員と一緒に授業したりしています。

図6－4－1



市が取り組んでいる小中一貫教育について知っているかを聞いたところ、「聞いたことはあるが詳細については知らない」が3割強（32.5%）と高く、これに「知っている」（29.4%）を合わせた《知っている》は6割強（61.9%）となっている。一方、「知らない」は4割近く（36.9%）となっている。（図6－4－1）

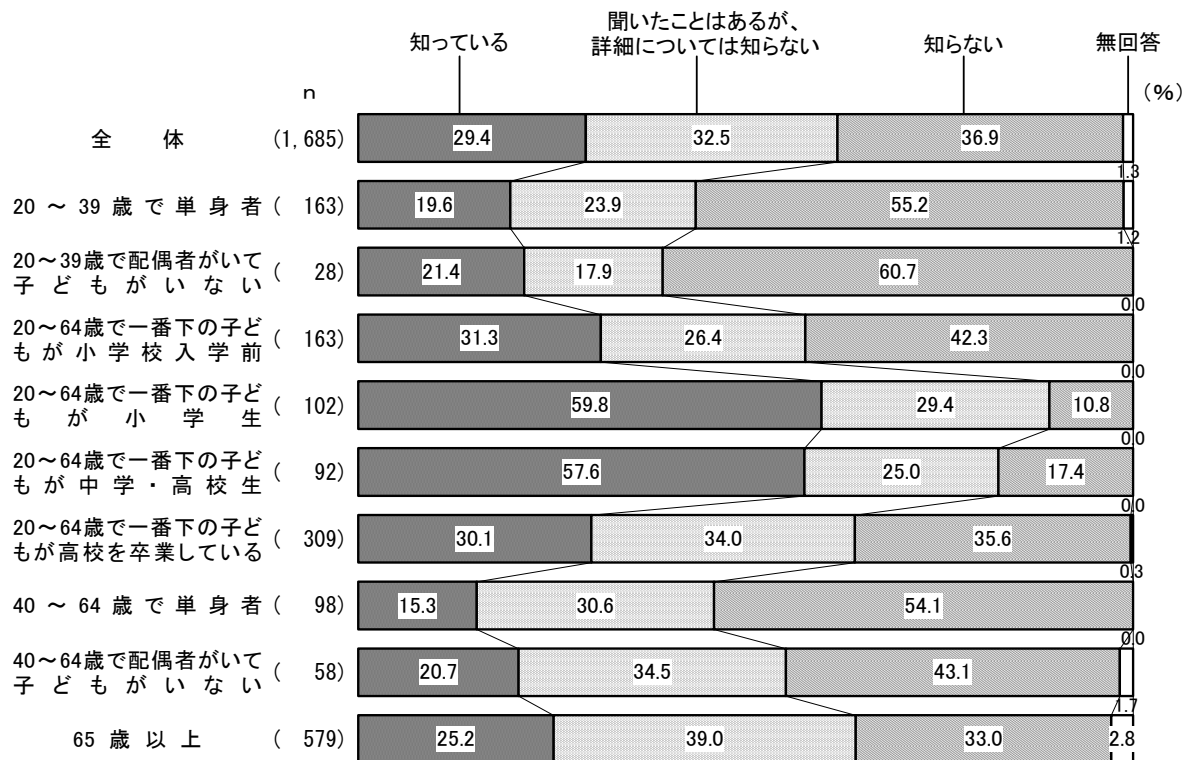
図 6－4－2 小中一貫教育の周知度－性別・年齢別



性別にみると、「知らない」は男性が7.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「知っている」は40～49歳で7割弱（69.9%）と高くなっている。一方、「知らない」は20～29歳で5割強（52.8%）と高くなっている。（図 6－4－2）

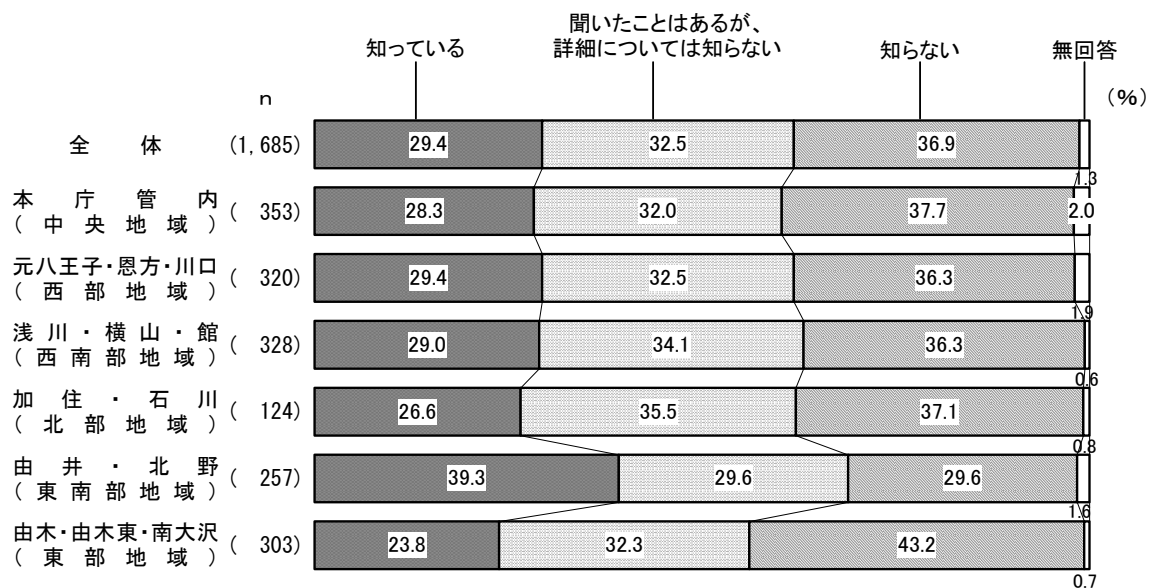
図6-4-3 小中一貫教育の周知度－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、《知っている》は“20～64歳で一番下の子どもが小学生”、“20～64歳で一番下の子どもが中学・高校生”で8割以上と高くなっている。一方、「知らない」は“20～39歳で配偶者がいて子どもがいない”で約6割（60.7%）と高くなっている。

(図6-4-3)

図6-4-4 小中一貫教育の周知度－居住地域別



居住地域別にみると、《知っている》は由井・北野（東南部地域）で7割近く（68.9%）と高くなっている。一方、「知らない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）で4割強（43.2%）と高くなっている。(図6-4-4)

6－5 学校選択制の周知度

◇《知っている》が7割台半ば

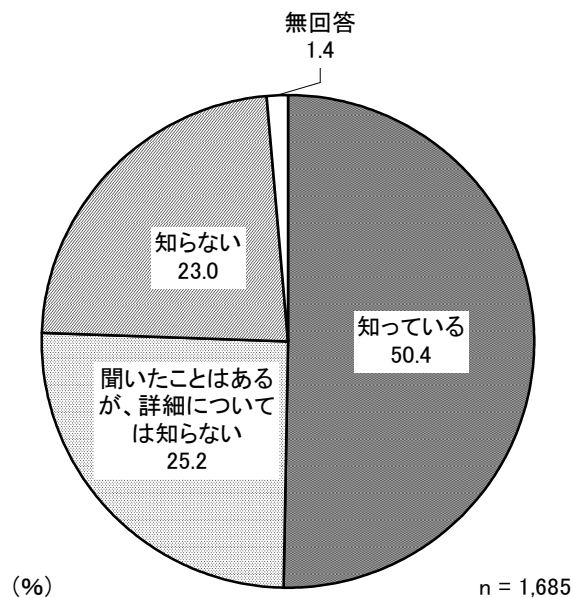
問14 あなたは、小・中学校に入学する際、子どもに適した小・中学校を選ぶことができる機会があること（学校選択制）をご存知ですか。あてはまるものに○をつけて下さい。

（○は1つだけ）

※学校選択制とは・・・

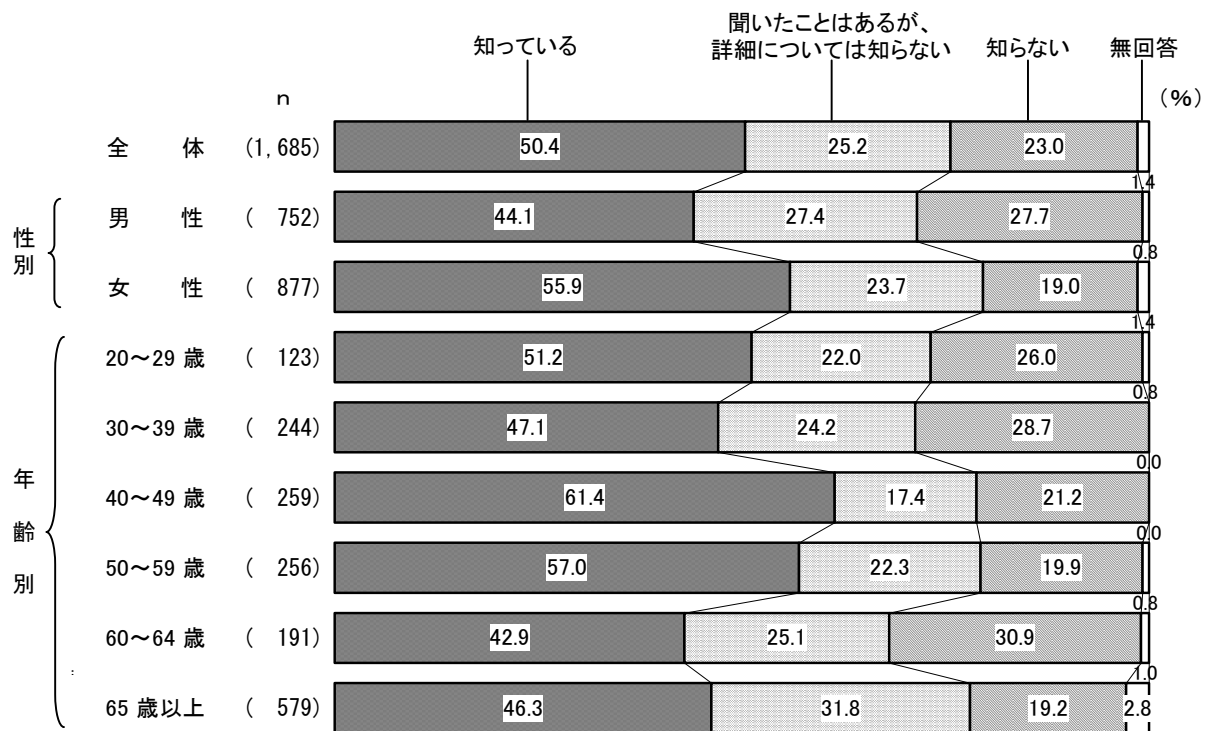
小・中学校に入学する際、小学校は住所により指定されている学校とその隣接校から、中学校は市内すべての市立学校から保護者や児童・生徒が希望する学校を選ぶことができる制度です。

図 6－5－1



学校選択制について知っているかを聞いたところ、「知っている」が約5割（50.4%）で最も高く、これに「聞いたことはあるが、詳細については知らない」（25.2%）を合わせた《知っている》は7割台半ば（75.6%）となっている。一方、「知らない」は2割強（23.0%）となっている。（図6－5－1）

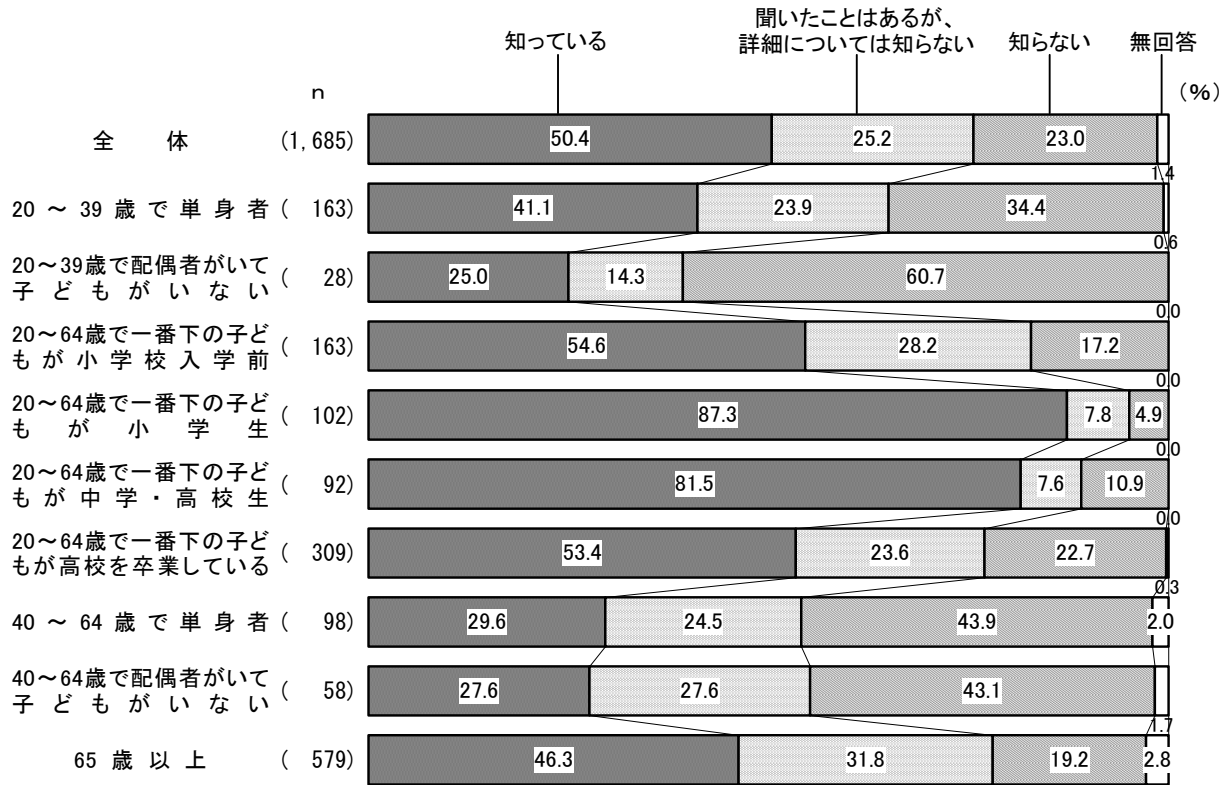
図 6－5－2 学校選択制の周知度－性別・年齢別



性別にみると、「知っている」は女性が11.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「知っている」は、40～49歳で6割強（61.4%）と高くなっている。一方、「知らない」は60～64歳で約3割（30.9%）と高くなっている。（図6－5－2）

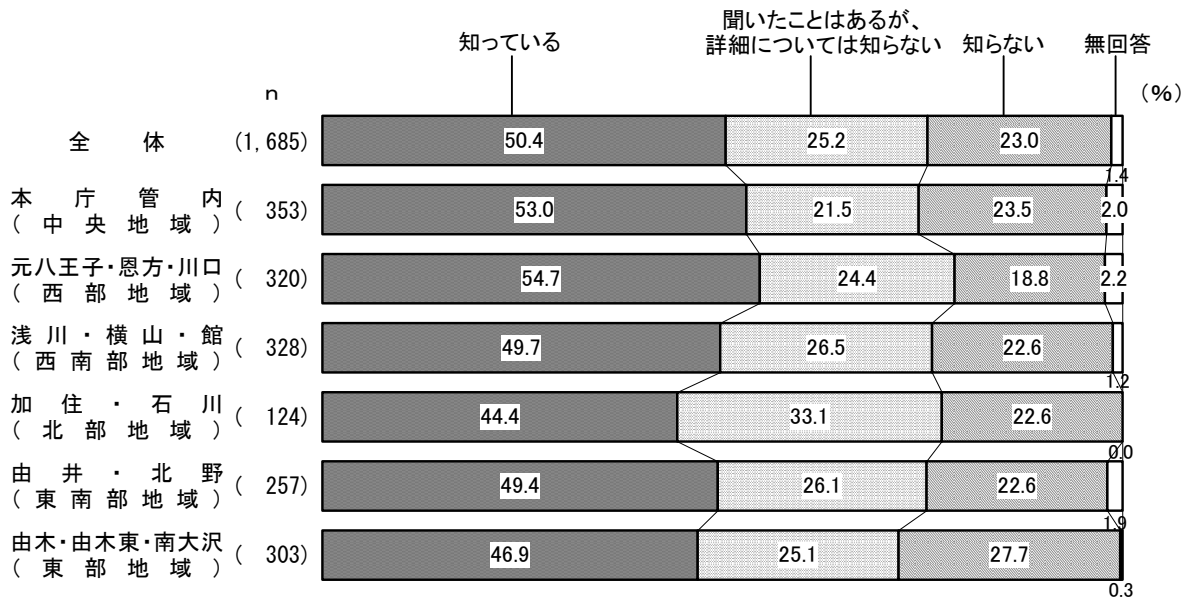
図 6－5－3 学校選択制の周知度－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「知っている」は“20～64歳で一番下の子どもが小学生”、“20～64歳で一番下の子どもが中学・高校生”で8割台と高くなっている。一方、「知らない」は“20～39歳で配偶者がいて子どもがいない”で約6割（60.7%）と高くなっている。

（図 6－5－3）

図 6－5－4 学校選択制の周知度－居住地域別



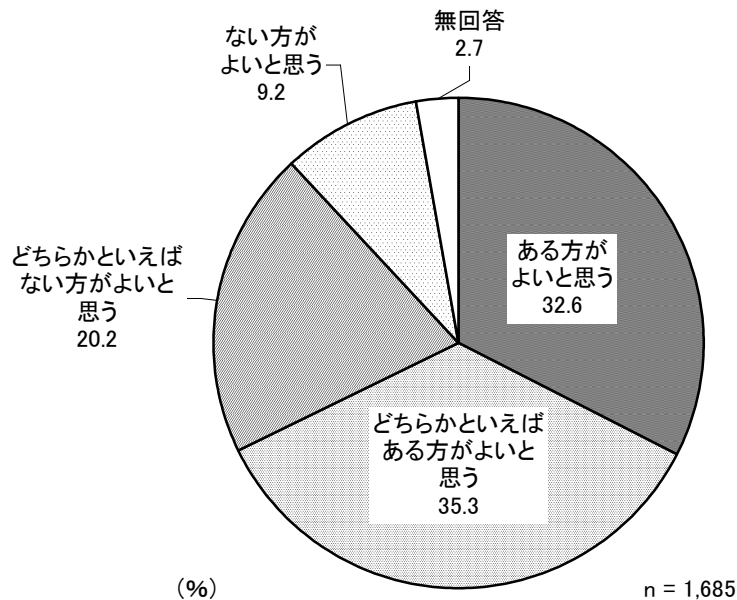
居住地域別にみると、「知っている」は元八王子・恩方・川口（西部地域）で5割台半ば（54.7%）と高くなっている。一方、「知らない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）で3割近く（27.7%）と高くなっている。（図 6－5－4）

6－6 小学校の学校選択制の必要性

◇《ある方がよいと思う》が7割近く

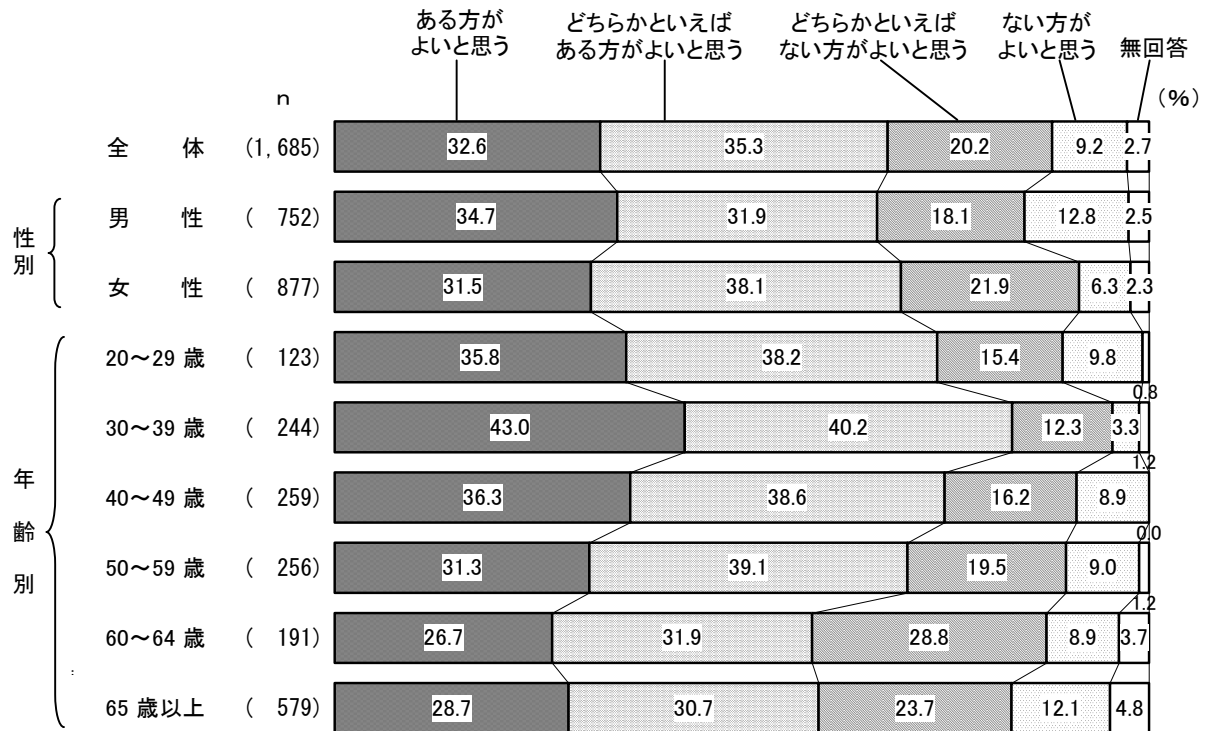
問15 あなたは、小学校に入学する際、学校選択制で小学校を選ぶことができる機会があることについてどう思いますか。あてはまるものに○をつけて下さい。(○は1つだけ)

図6－6－1



小学校の学校選択制の必要性について聞いたところ、「どちらかといえばある方がよいと思う」が3割台半ば（35.3%）と最も高く、これに「ある方がよいと思う」（32.6%）を合わせた《ある方がよいと思う》は7割近く（67.9%）となっている。一方、「どちらかといえばない方がよいと思う」（20.2%）と「ない方がよいと思う」（9.2%）を合わせた《ない方がよいと思う》は3割弱（29.4%）となっている。（図6－6－1）

図 6 - 6 - 2 小学校の学校選択制の必要性－性別・年齢別

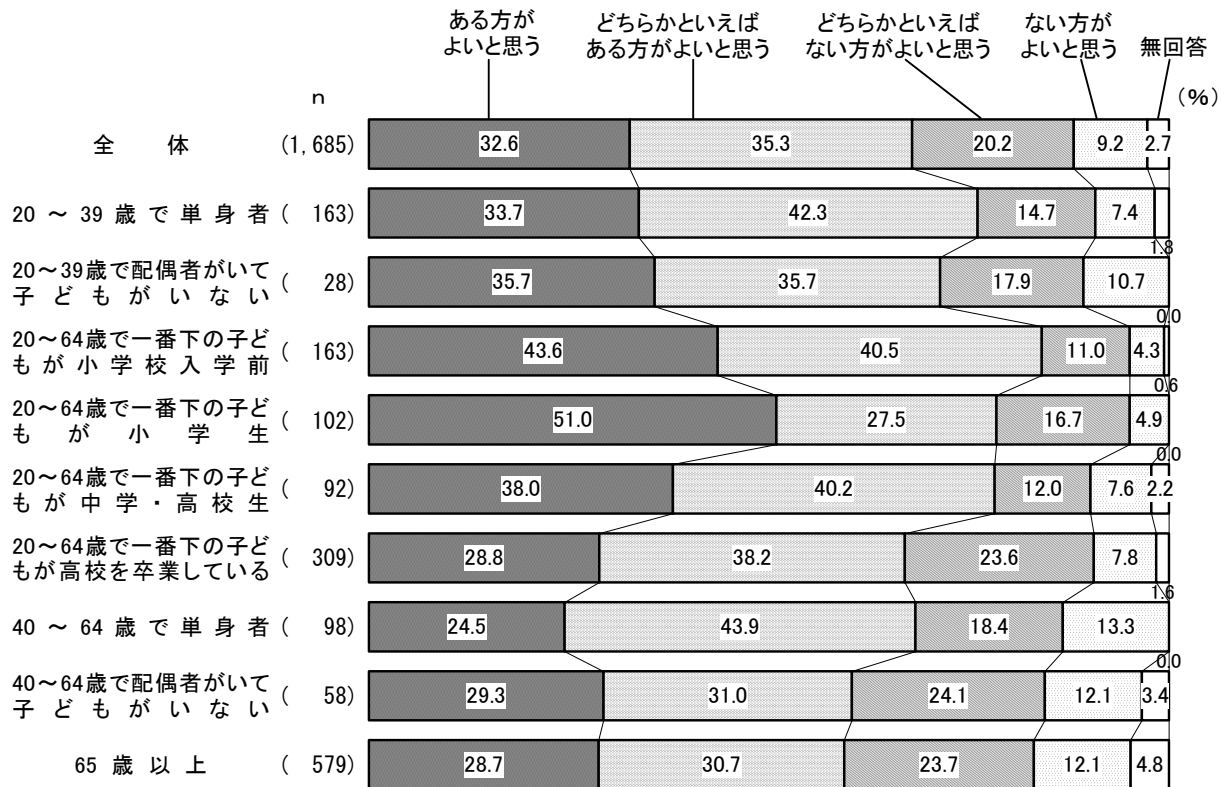


性別にみると、《ある方がよいと思う》は女性が3.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《ある方がよいと思う》は30～39歳で8割強（83.2%）と高くなっている。
一方、《ない方がよいと思う》は60～64歳で4割近く（37.7%）と高くなっている。

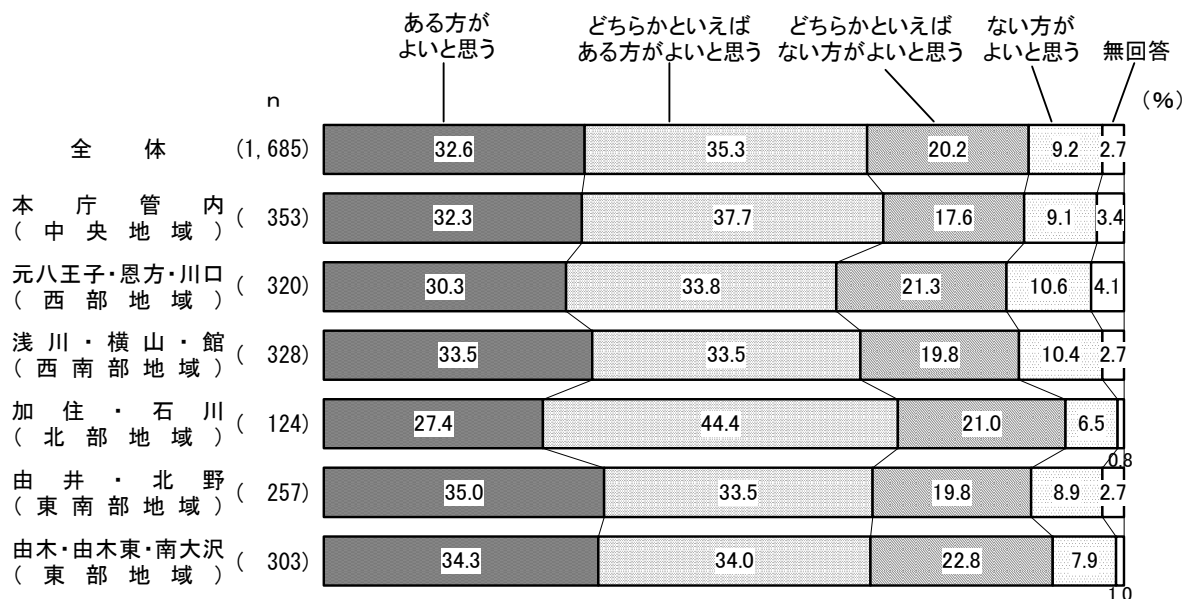
(図 6 - 6 - 2)

図6-6-3 小学校の学校選択制の必要性－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、《ある方がよいと思う》は“20～64歳で一番下の子どもが小学校入学前”で8割台半ば（84.1%）と高くなっている。一方、《ない方がよいと思う》は“40～64歳で配偶者がいて子どもがいない”で4割近く（36.2%）と高くなっている。（図6-6-3）

図6-6-4 小学校の学校選択制の必要性－居住地域別



居住地域別にみると、《ある方がよいと思う》は加住・石川（北部地域）で7割強（71.8%）と高くなっている。一方、《ない方がよいと思う》は元八王子・恩方・川口（西部地域）で3割強（31.9%）と高くなっている。（図6-6-4）

6－7 小学校の学校選択制が必要な理由

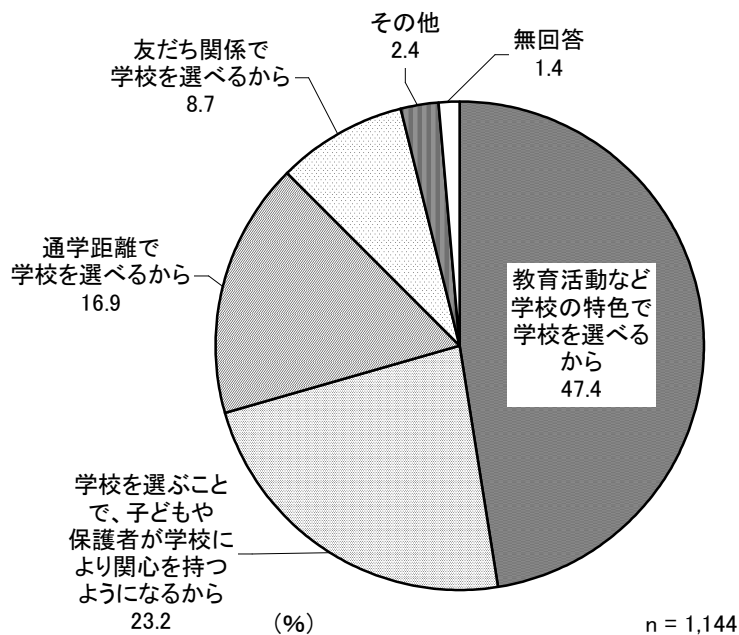
◇「教育活動など学校の特色で学校を選べるから」が5割近く

(問15で、「ある方がよいと思う」または「どちらかといえばある方がよいと思う」とお答えの方に)

問15－1 その理由はどれですか。あなたの考えに最も近いものを選び○をつけて下さい。

(○は1つだけ)

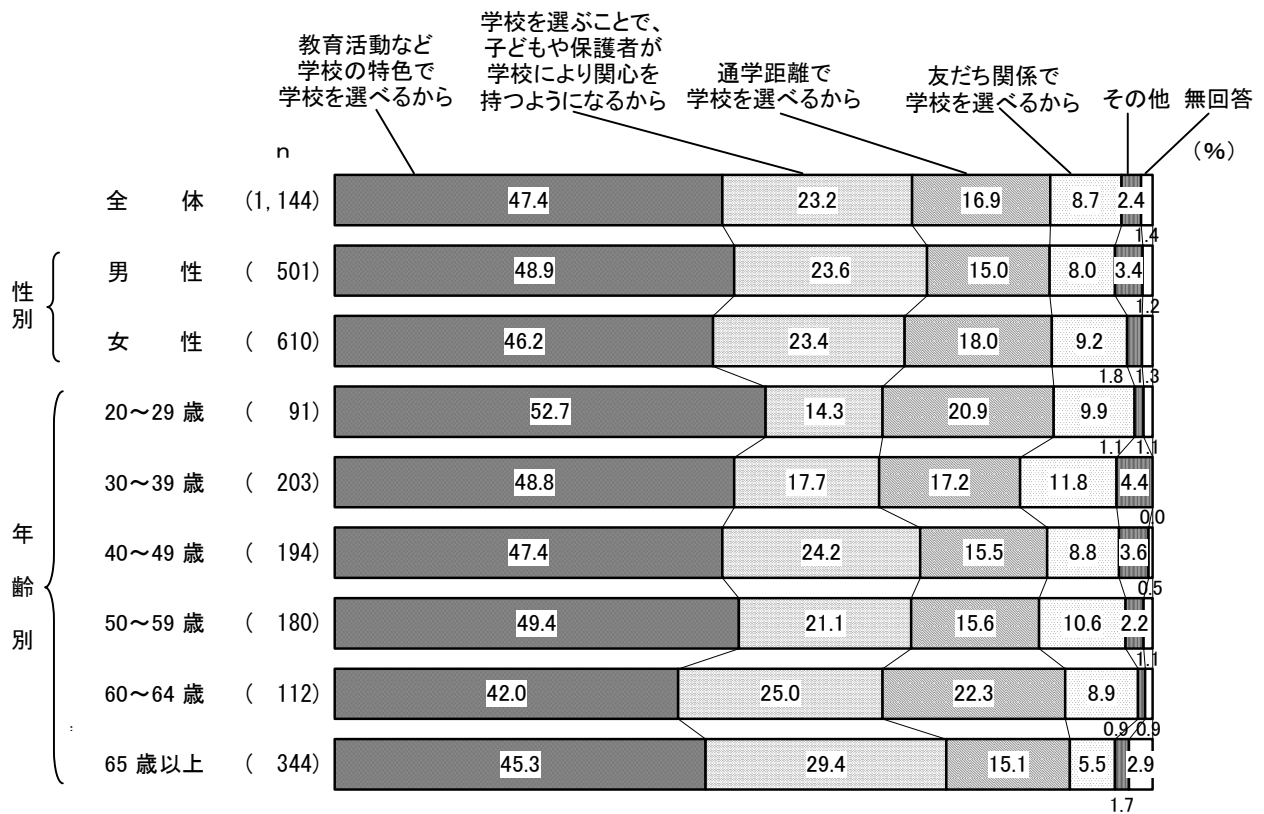
図6－7－1



小学校の学校選択制の必要性で「ある方がよいと思う」、「どちらかといえばある方がよいと思う」と答えた人（1,144人）に小学校の学校選択制が必要な理由を聞いたところ、「教育活動など学校の特色で学校を選べるから」が5割近く（47.4%）と最も高く、次いで「学校を選ぶことで、子どもや保護者が学校により関心を持つようになるから」（23.2%）、「通学距離で学校を選べるから」（16.9%）、「友だち関係で学校を選べるから」（8.7%）と続いている。

(図6－7－1)

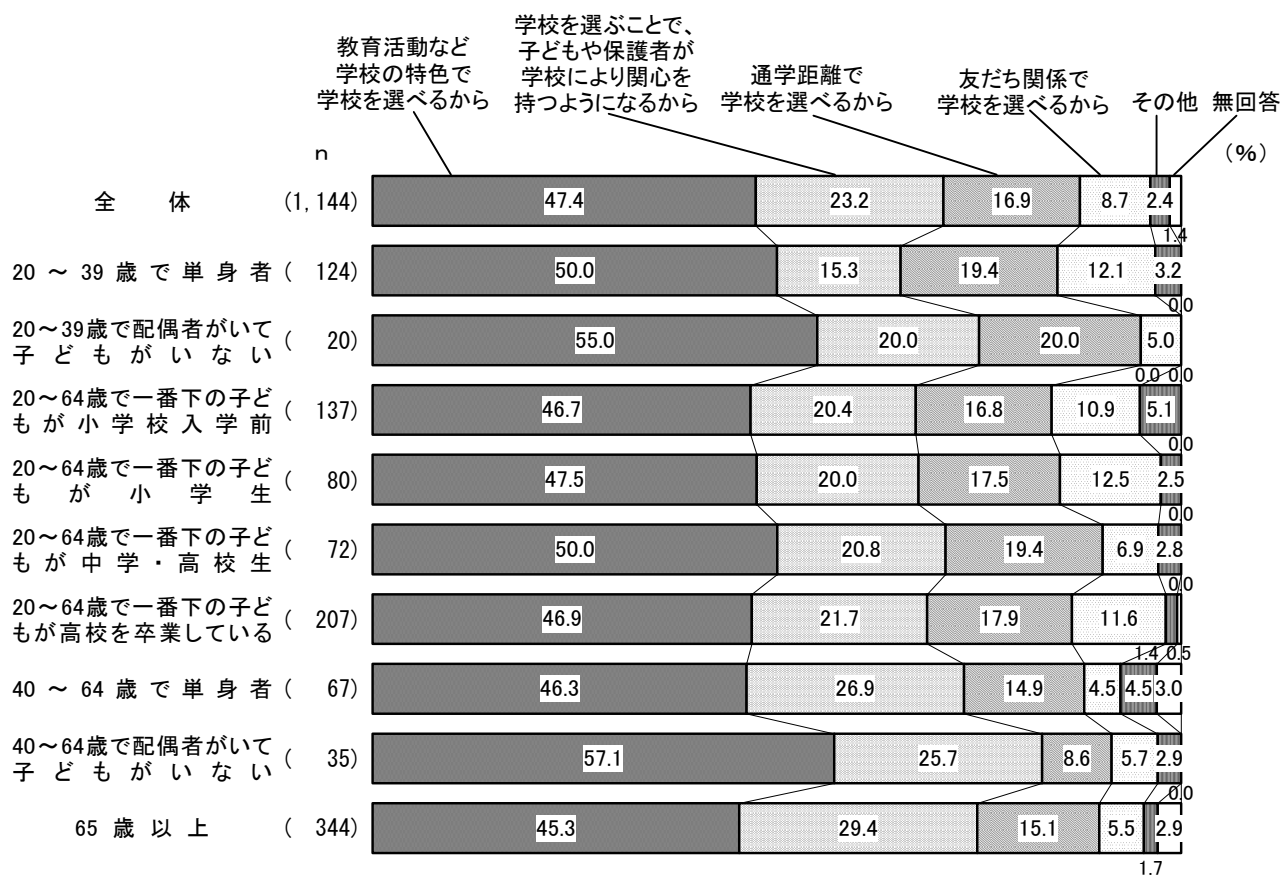
図 6－7－2 小学校の学校選択制が必要な理由－性別・年齢別



性別にみると、「通学距離で学校を選べるから」は女性が3.0ポイント高くなっている。一方、「教育活動など学校の特色で学校を選べるから」は男性が2.7ポイント高くなっている。

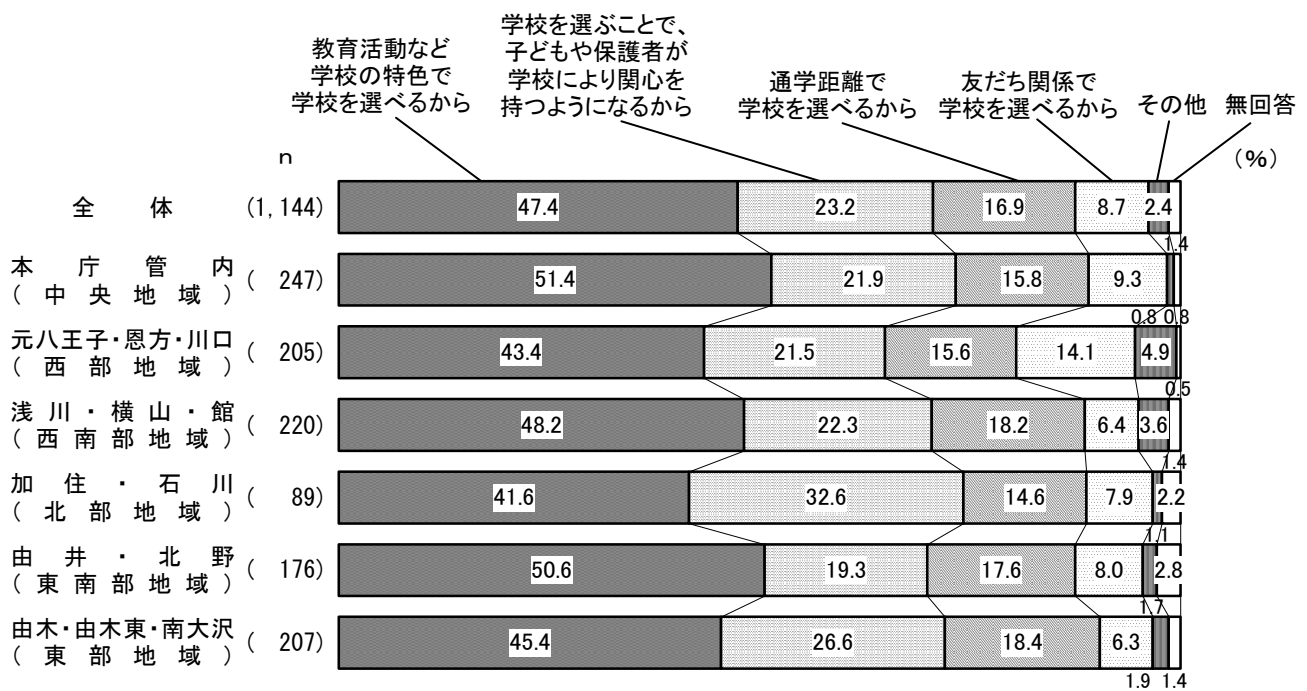
年齢別にみると、「教育活動など学校の特色で学校を選べるから」は20～29歳で5割強（52.7%）と高くなっている。また、「学校を選ぶことで、子どもや保護者が学校により関心を持つようになるから」は65歳以上で3割弱（29.4%）と高く、「通学距離で学校を選べるから」は60～64歳で2割強（22.3%）と高くなっている。（図6－7－2）

図 6-7-3 小学校の学校選択制が必要な理由－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「教育活動など学校の特色で学校を選べるから」は“40～64歳で配偶者がいて子どもがいない”で6割近く（57.1%）と高くなっている。また、「学校を選ぶことで、子どもや保護者が学校により関心を持つようになるから」は“65歳以上”で3割弱（29.4%）と高くなっている。（図6-7-3）

図 6－7－4 小学校の学校選択制が必要な理由－居住地域別



居住地域別にみると、「学校を選ぶことで、子どもや保護者が学校により関心を持つようになるから」は加住・石川（北部地域）で3割強（32.6%）と高くなっている。（図 6－7－4）

6－8 小学校の学校選択制が必要でない理由

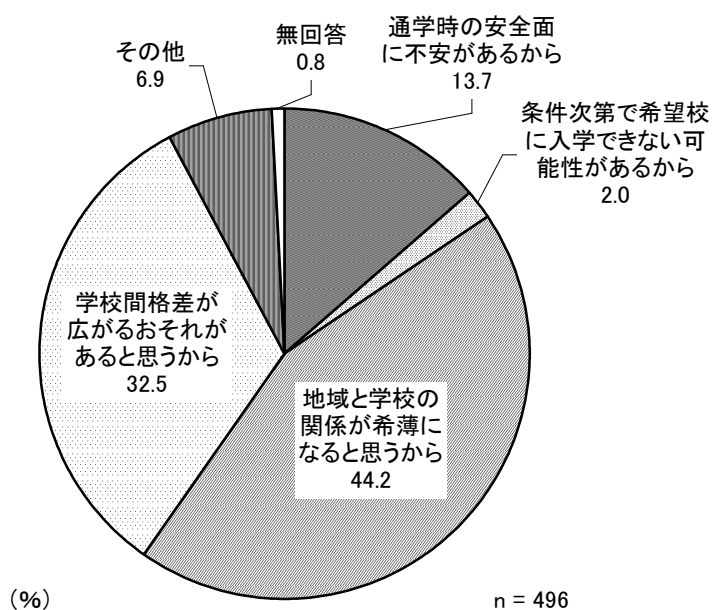
◇「地域と学校の関係が希薄になると思うから」が4割台半ば

(問15で、「どちらかといえばない方がよいと思う」または「ない方がよいと思う」とお答えの方に)

問15－2 その理由はどれですか。あなたの考えに最も近いものを選び○をつけて下さい。

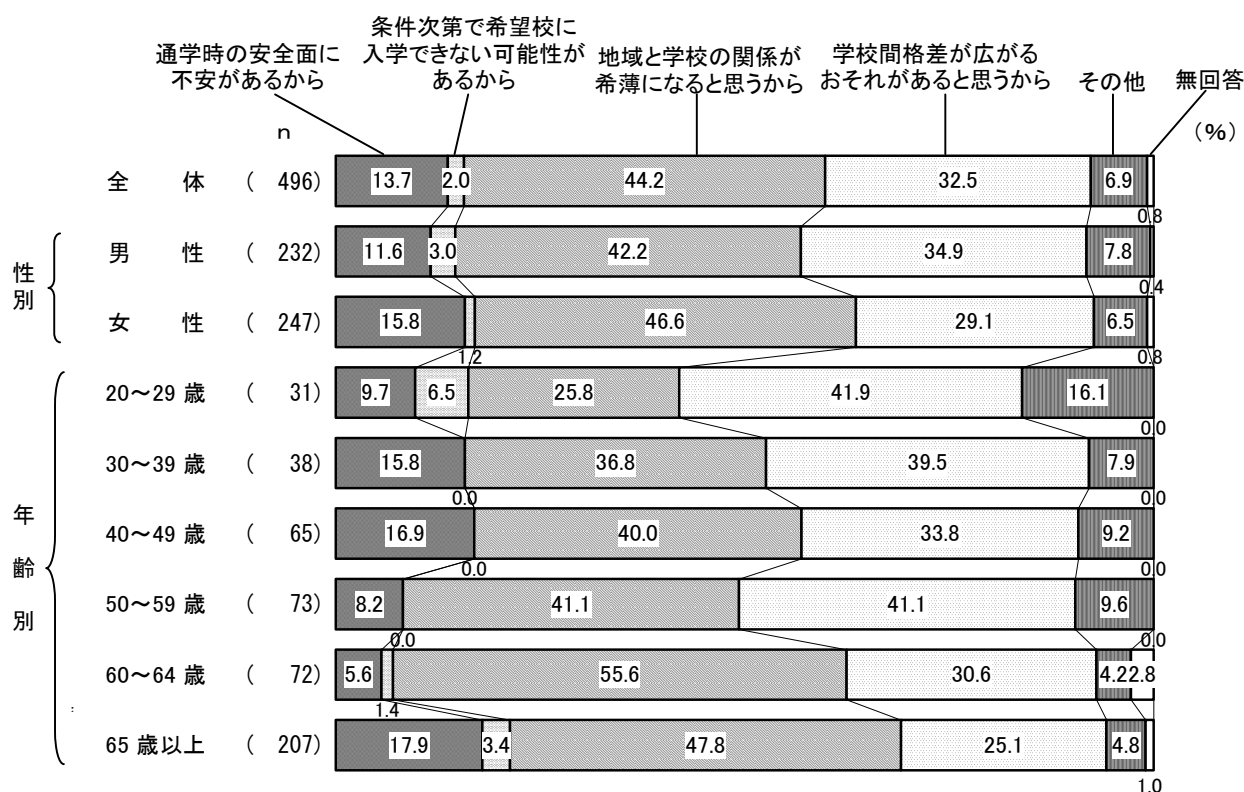
(○は1つだけ)

図6－8－1



小学校の学校選択制の必要性で「ない方がよいと思う」、「どちらかといえばない方がよいと思う」と答えた人（496人）に小学校の学校選択制が必要でない理由を聞いたところ、「地域と学校の関係が希薄になると思うから」が4割台半ば（44.2%）と最も高く、次いで「学校間格差が広がるおそれがあると思うから」（32.5%）、「通学時の安全面に不安があるから」（13.7%）、「条件次第で希望校に入学できない可能性があるから」（2.0%）と続いている。（図6－8－1）

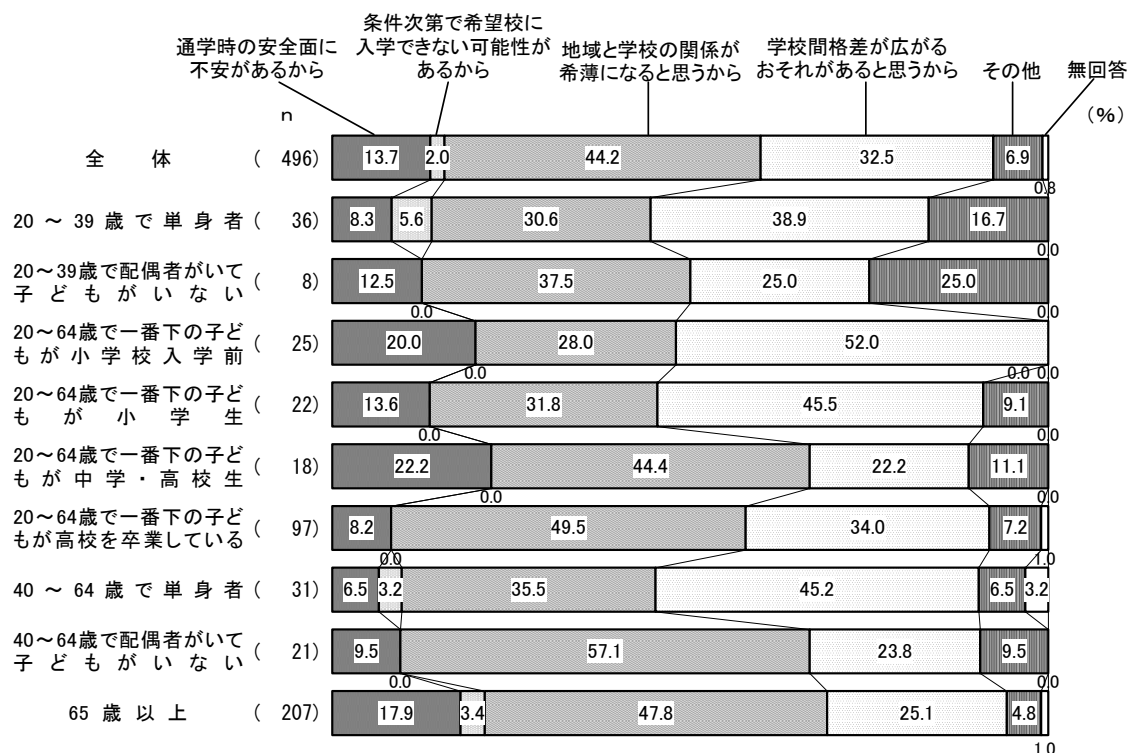
図 6－8－2 小学校の学校選択制が必要でない理由－性別・年齢別



性別にみると、「学校間格差が広がるおそれがあると思うから」は男性が5.8ポイント高くなっている。一方、「地域と学校の関係が希薄になると思うから」は女性が4.4ポイント高くなっている。

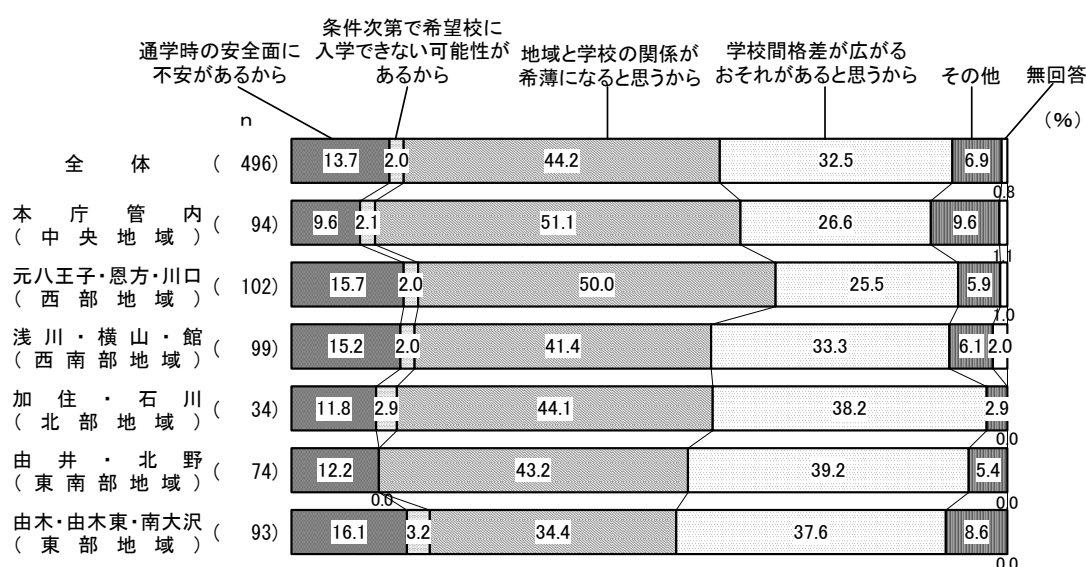
年齢別にみると、「地域と学校の関係が希薄になると思うから」は60～64歳で5割台半ば（55.6%）と高くなっている。また、「学校間格差が広がるおそれがあると思うから」は20～29歳（41.9%）と50～59歳（41.1%）で4割強と高くなっている。（図6－8－2）

図 6-8-3 小学校の学校選択制が必要でない理由－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「地域と学校の関係が希薄になると思うから」は“40～64歳で配偶者がいて子どもがいない”で6割近く（57.1%）と最も高く、次いで“20～64歳で一番下の子どもが高校を卒業している”（49.5%）、“65歳以上”（47.8%）と続いている。また、「学校間格差が広がるおそれがあると思うから」は“20～64歳で一番下の子どもが小学校入学前”で5割強（52.0%）と高くなっている。（図 6-8-3）

図 6-8-4 小学校の学校選択制が必要でない理由－居住地域別



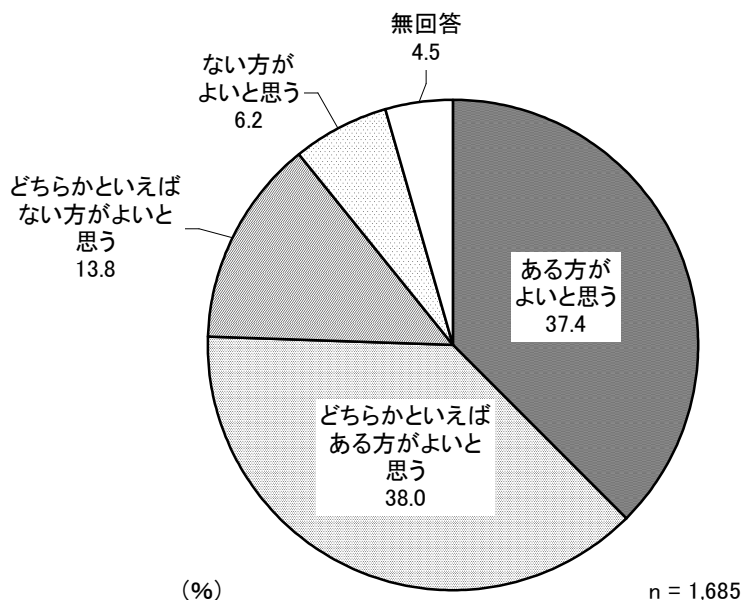
居住地域別にみると、「地域と学校の関係が希薄になると思うから」は本庁管内（中央地域）で5割強（51.1%）、元八王子・恩方・川口（西部地域）で5割（50.0%）と高くなっている。（図 6-8-4）

6－9 中学校の学校選択制の必要性

◇《ある方がよいと思う》が7割台半ば

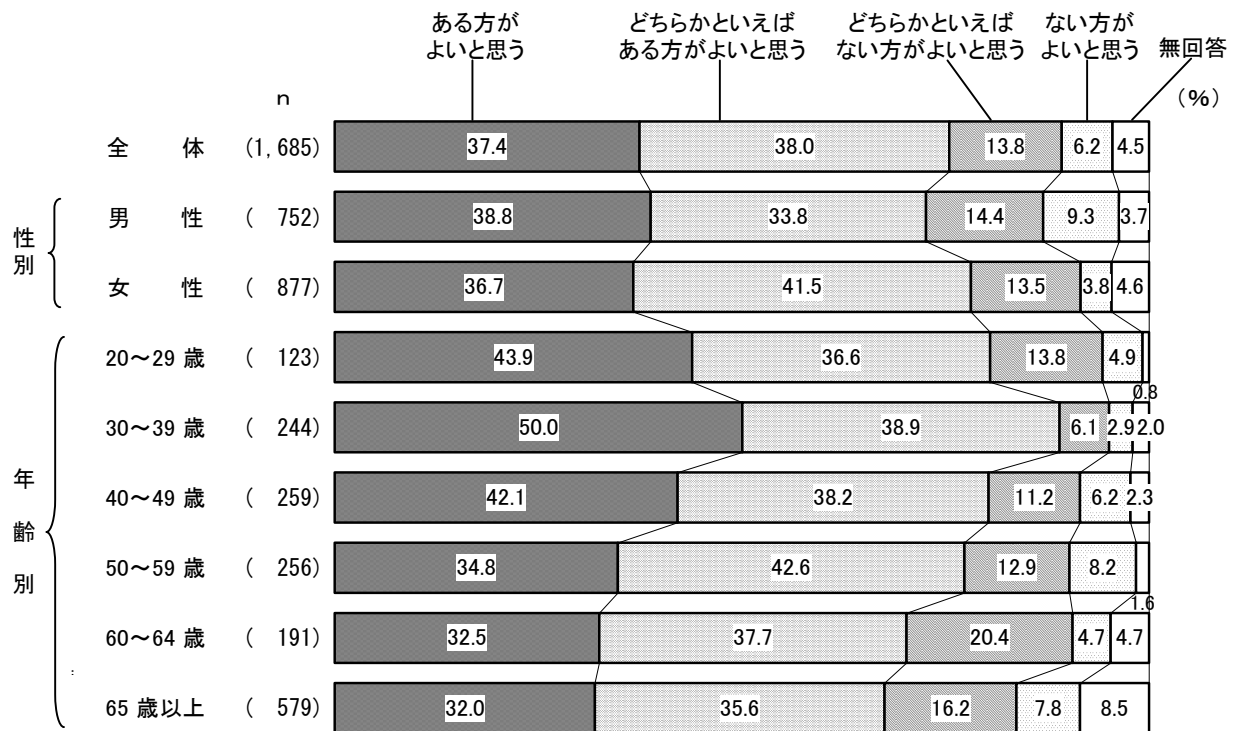
問16 あなたは、中学校に入学する際、学校選択制で中学校を選ぶことができる機会があることについてどう思いますか。あてはまるものに○をつけて下さい。(○は1つだけ)

図6－9－1



中学校の学校選択制の必要性について聞いたところ、「どちらかといえばある方がよいと思う」が4割近く（38.0%）と最も高く、これに「ある方がよいと思う」（37.4%）を合わせた《ある方がよいと思う》は7割台半ば（75.4%）となっている。一方、「どちらかといえばない方がよいと思う」（13.8%）と「ない方がよいと思う」（6.2%）を合わせた《ない方がよいと思う》は2割（20.0%）となっている。（図6－9－1）

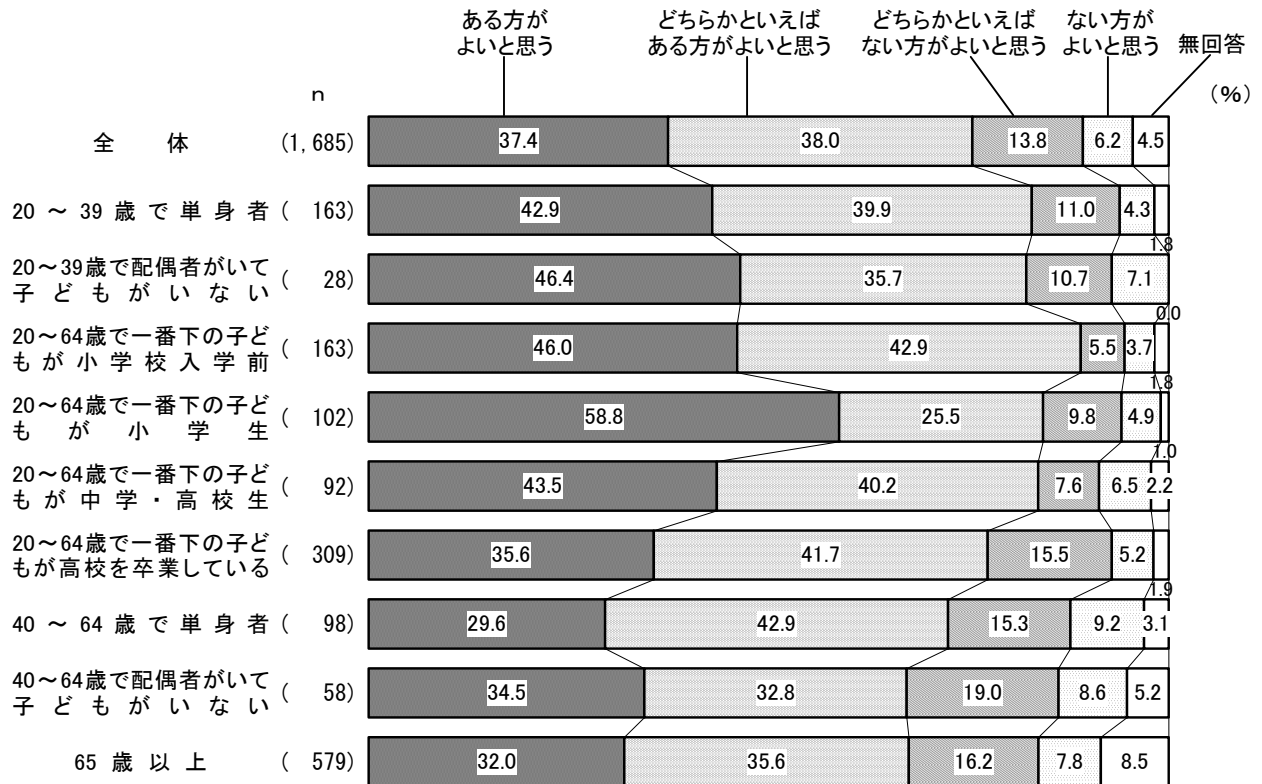
図 6－9－2 中学校の学校選択制の必要性－性別・年齢別



性別にみると、《ある方がよいと思う》は女性が5.6ポイント高くなっている。

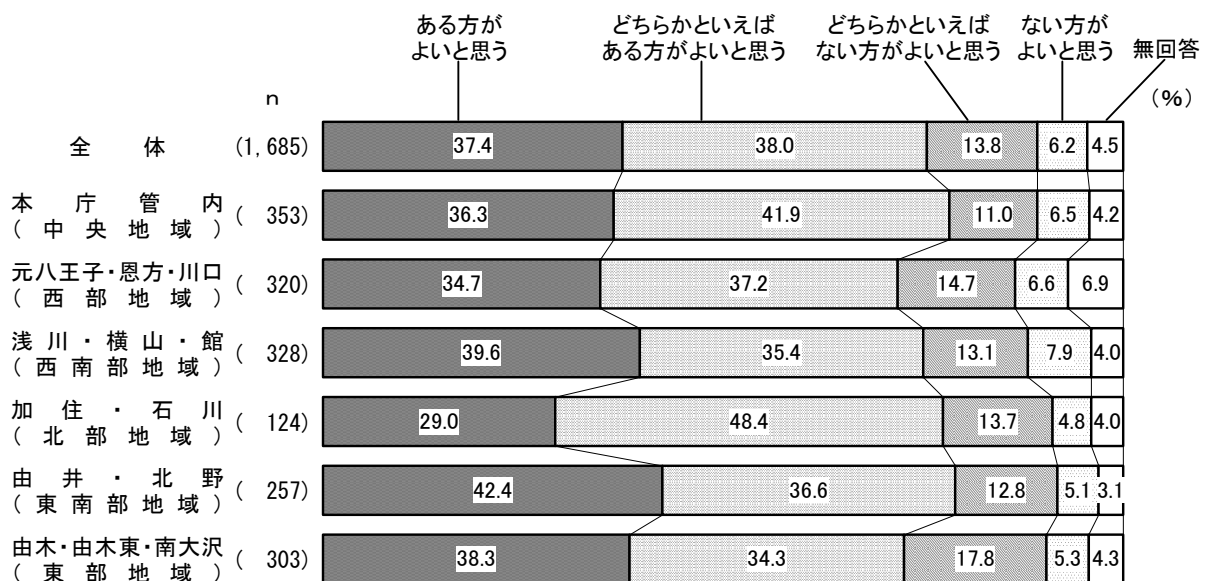
年齢別にみると、《ある方がよいと思う》は30～39歳で9割近く（88.9%）と高くなっている。一方、《ない方がよいと思う》は60～64歳（25.1%）と65歳以上（24.0%）で2割台半ばと高くなっている。（図 6－9－2）

図6-9-3 中学校の学校選択制の必要性－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「ある方がよいと思う」は“20～64歳で一番下の子どもが小学生”で6割近く（58.8%）と高くなっている。一方、「ない方がよいと思う」は“40～64歳で配偶者がいて子どもがいない”で3割近く（27.6%）と高くなっている。（図6-9-3）

図6-9-4 中学校の学校選択制の必要性－居住地域別



居住地域別にみると、「ある方がよいと思う」は由井・北野（東南部地域）で4割強（42.4%）と高くなっている。（図6-9-4）

6-10 中学校の学校選択制が必要な理由

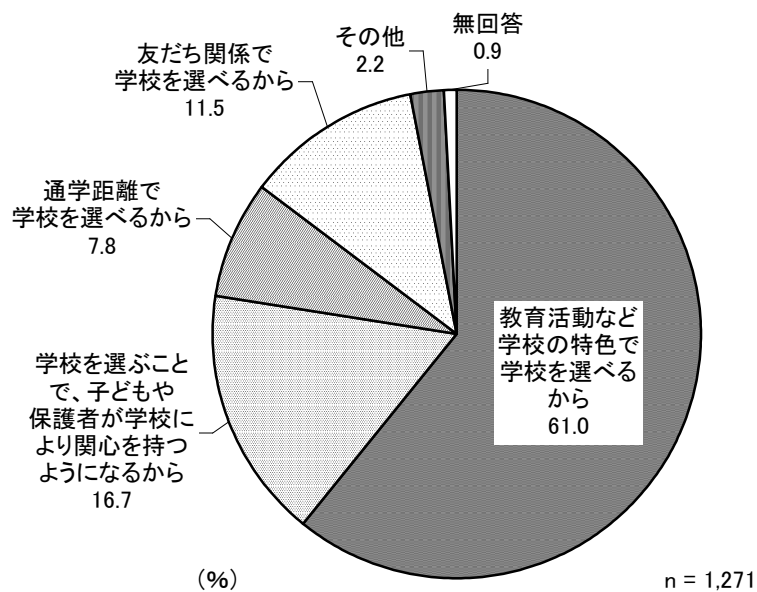
◇「教育活動など学校の特色で学校を選べるから」が6割強

(問16で、「ある方がよいと思う」または「どちらかといえばある方がよいと思う」とお答えの方に)

問16-1 その理由はどれですか。あなたの考えに最も近いものを選び○をつけて下さい。

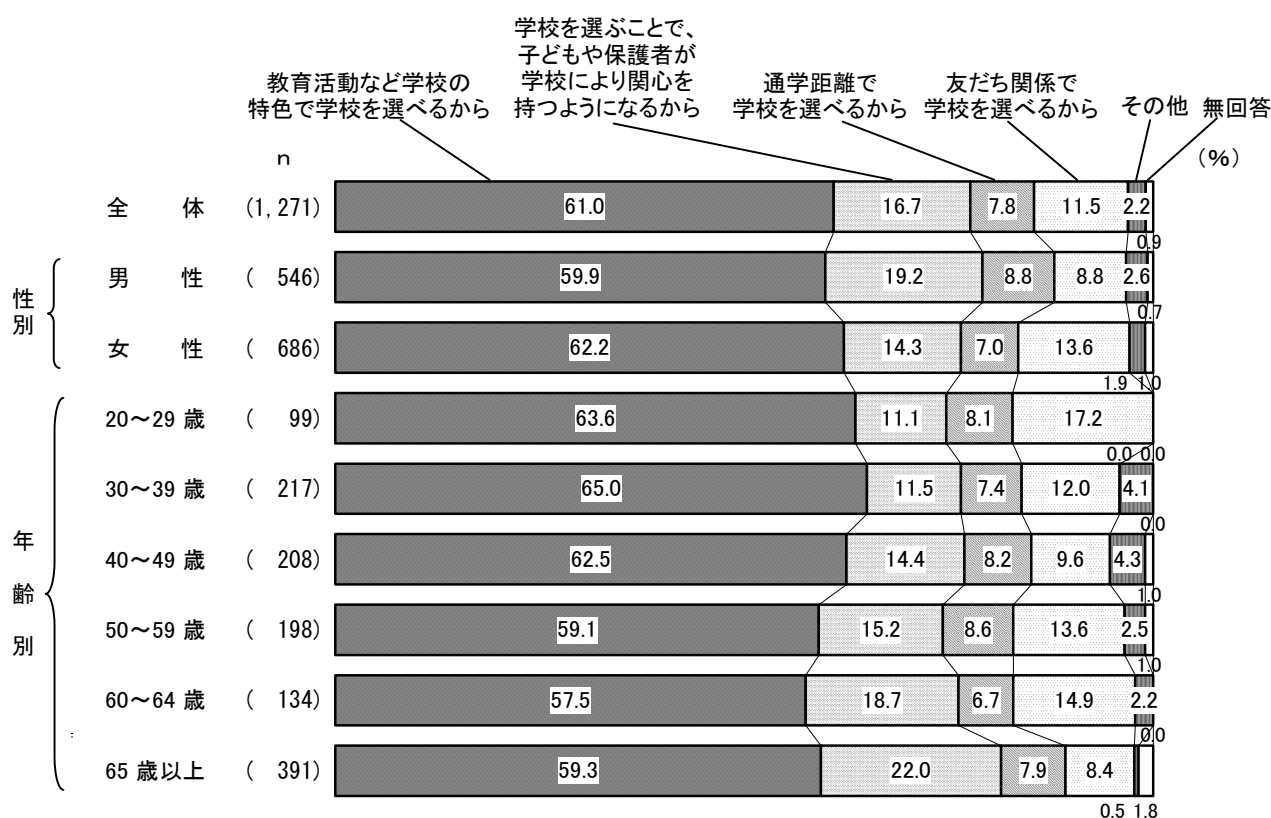
(○は1つだけ)

図6-10-1



中学校の学校選択制の必要性で「ある方がよいと思う」、「どちらかといえばある方がよいと思う」と答えた人（1,271人）に中学校の学校選択制が必要な理由を聞いたところ、「教育活動など学校の特色で学校を選べるから」が6割強（61.0%）と最も高く、次いで「学校を選ぶことで、子どもや保護者が学校により関心を持つようになるから」（16.7%）、「友だち関係で学校を選べるから」（11.5%）、「通学距離で学校を選べるから」（7.8%）と続いている。（図6-10-1）

図 6-10-2 中学校の学校選択制が必要な理由－性別・年齢別

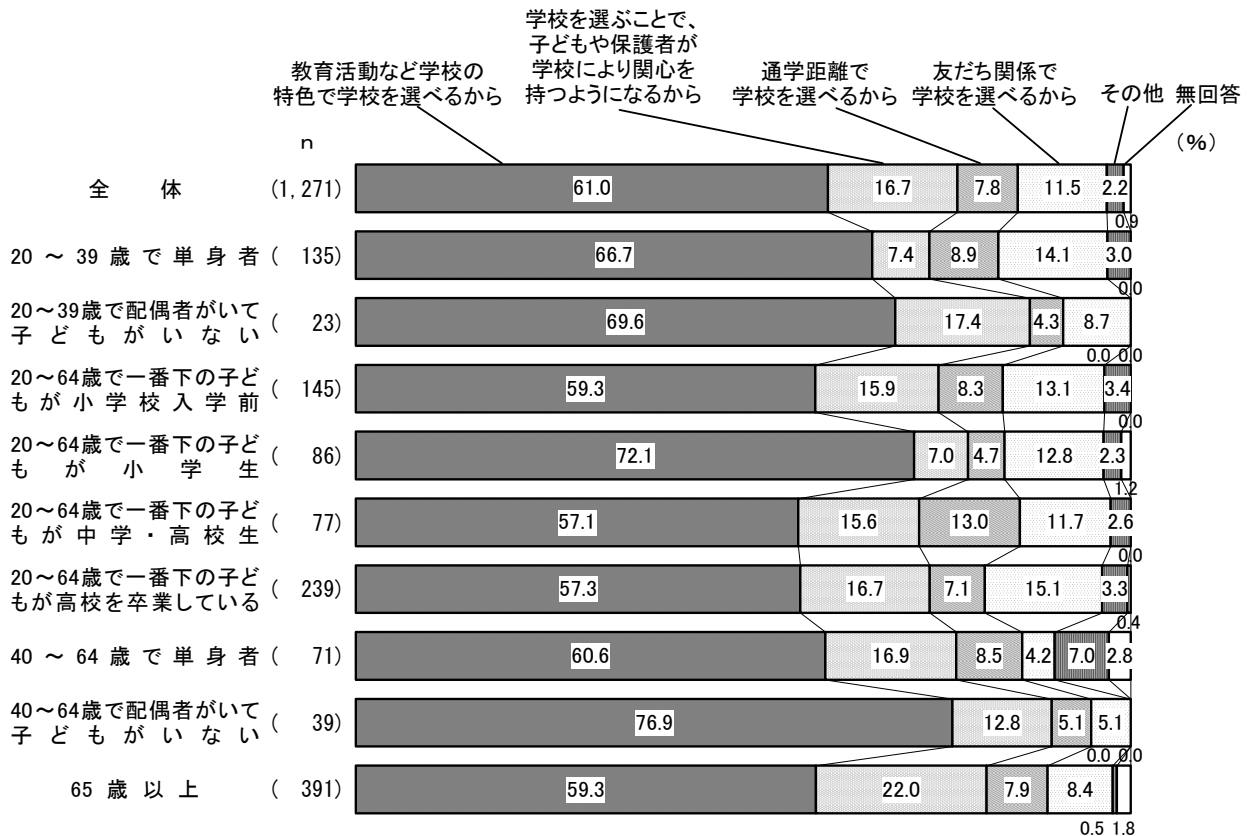


性別にみると、「学校を選ぶことで、子どもや保護者が学校により関心を持つようになるから」は男性が4.9ポイント高くなっている。一方、「友だち関係で学校を選べるから」は女性が4.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「学校を選ぶことで、子どもや保護者が学校により関心を持つようになるから」は年代が上がるにつれて割合が高く、65歳以上で2割強（22.0%）となっている。また、「友だち関係で学校を選べるから」は20~29歳で2割近く（17.2%）となっている。

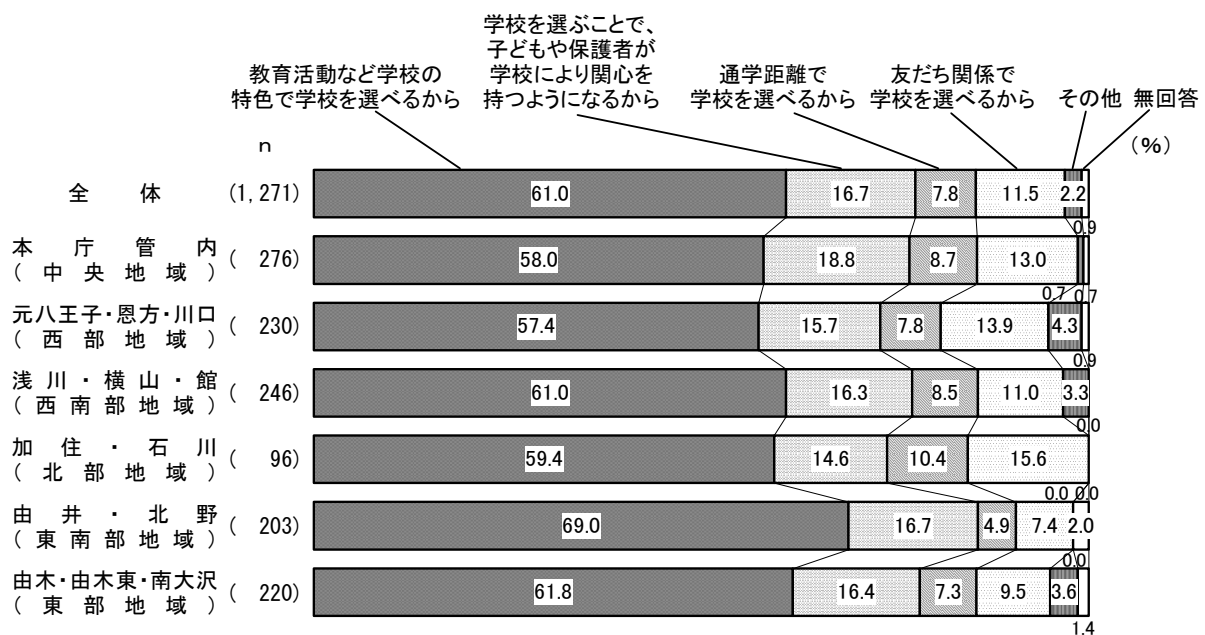
(図 6-10-2)

図 6-10-3 中学校の学校選択制が必要な理由－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「教育活動など学校の特色で学校を選べるから」は“40～64歳で配偶者がいて子どもがいない”で8割近く（76.9%）と最も高く、次いで“20～64歳で一番下の子どもが小学生”で7割強（72.1%）となっている。（図 6-10-3）

図 6-10-4 中学校の学校選択制が必要な理由－居住地域別



居住地域別にみると、「教育活動など学校の特色で学校を選べるから」は由井・北野（東南部地域）で7割弱（69.0%）と高くなっている。（図 6-10-4）

6-11 中学校の学校選択制が必要でない理由

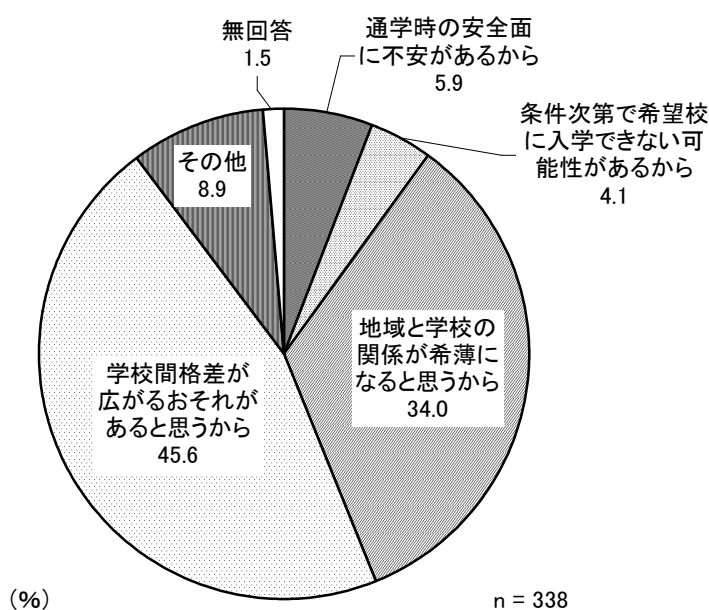
◇「学校間格差が広がるおそれがあると思うから」が4割台半ば

(問16で、「どちらかといえばない方がよいと思う」または「ない方がよいと思う」とお答えの方に)

問16-2 その理由はどれですか。あなたの考えに最も近いものを選び○をつけて下さい。

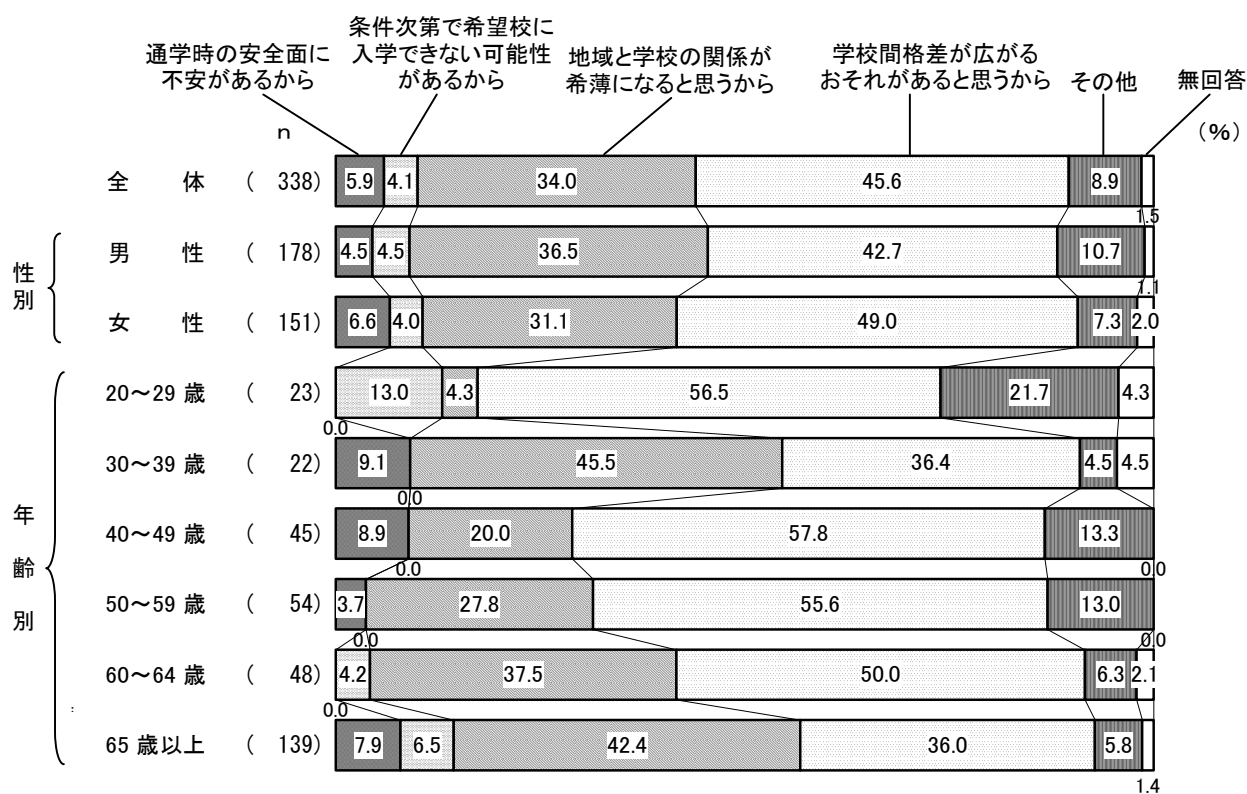
(○は1つだけ)

図6-11-1



中学校の学校選択制の必要性で「ない方がよいと思う」、「どちらかといえばない方がよいと思う」と答えた人(338人)に中学校の学校選択制が必要でない理由を聞いたところ、「学校間格差が広がるおそれがあると思うから」が4割台半ば(45.6%)と最も高く、次いで「地域と学校の関係が希薄になると思うから」(34.0%)、「通学時の安全面に不安があるから」(5.9%)、「条件次第で希望校に入学できない可能性があるから」(4.1%)と続いている。(図6-11-1)

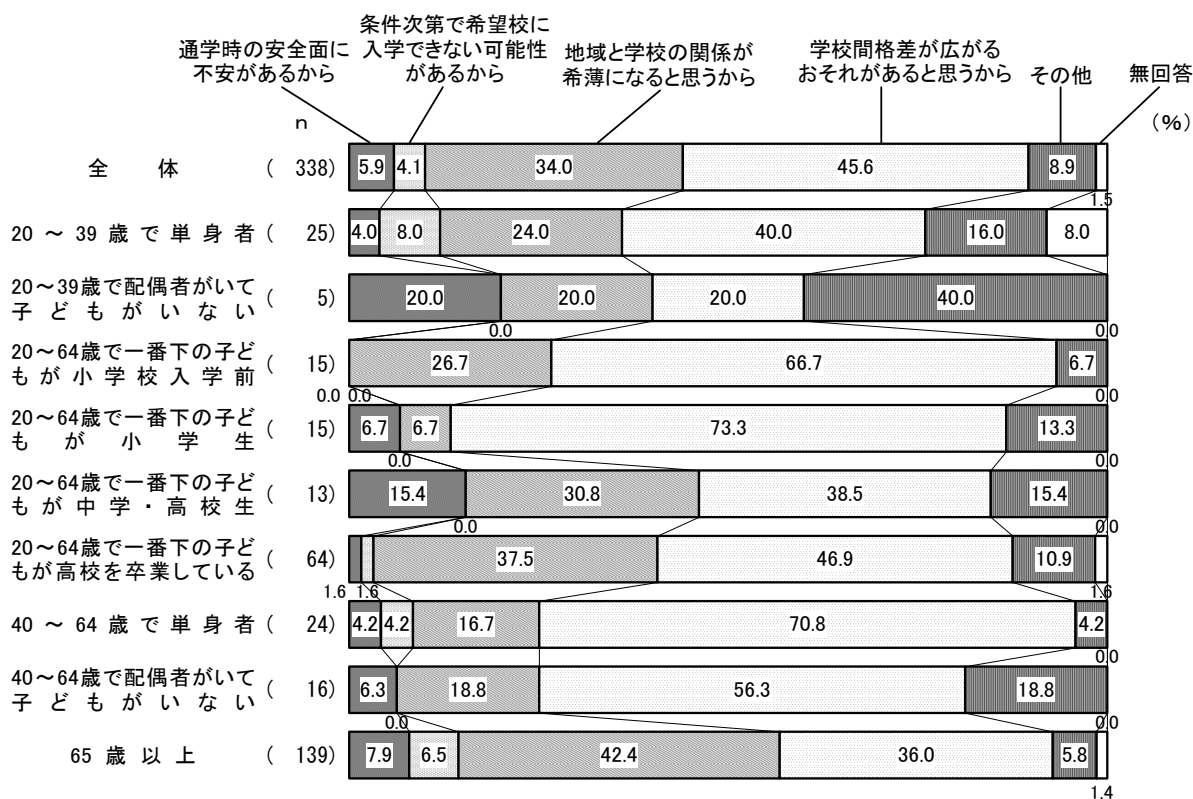
図 6-11-2 中学校の学校選択制が必要でない理由－性別・年齢別



性別にみると、「学校間格差が広がるおそれがあると思うから」は女性が6.3ポイント高くなっている。一方、「地域と学校の関係が希薄になると思うから」は男性が5.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「学校間格差が広がるおそれがあると思うから」は40～49歳（57.8%）と20～29歳（56.5%）で6割近くと高くなっている。また、「地域と学校の関係が希薄になると思うから」は30～39歳で4割台半ば（45.5%）と高くなっている。（図 6-11-2）

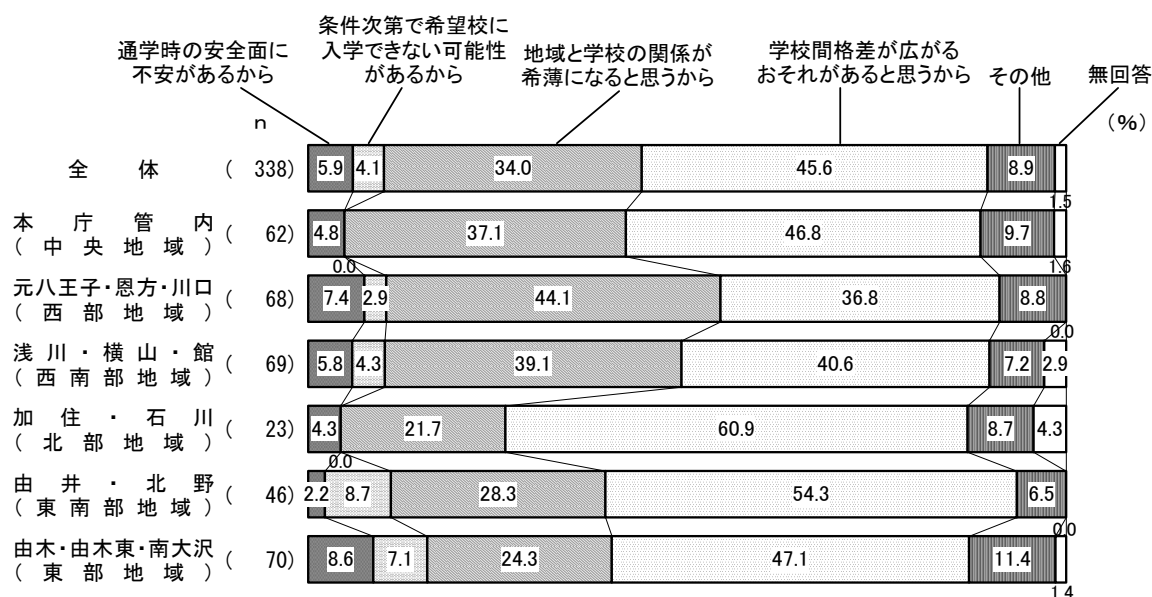
図 6-11-3 中学校の学校選択制が必要でない理由－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「学校間格差が広がるおそれがあると思うから」は“20～64歳で一番下の子どもが小学生”で7割強（73.3%）と高くなっている。また、「地域と学校の関係が希薄になると思うから」は“65歳以上”で4割強（42.4%）と高くなっている。

（図 6-11-3）

図 6-11-4 中学校の学校選択制が必要でない理由－居住地域別



居住地域別にみると、「学校間格差が広がるおそれがあると思うから」は加住・石川（北部地域）で約6割（60.9%）と高くなっている。また、「地域と学校の関係が希薄になると思うから」は元八王子・恩方・川口（西部地域）で4割台半ば（44.1%）と高くなっている。

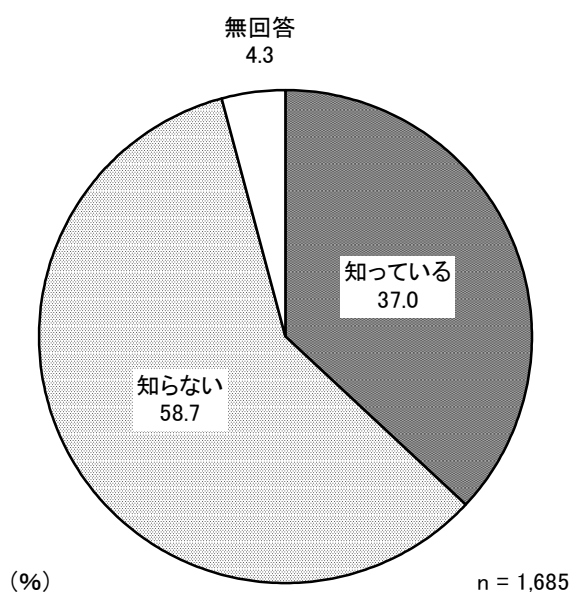
（図 6-11-4）

6-12 学校・家庭・地域が協働した教育活動の周知度

◇「知らない」が6割近く

問17 市は、地域ぐるみで子どもを育てるという考え方のもと、学校の教育活動を公開し、学校・家庭・地域が協働して教育活動を進めるなど、地域に開かれ、地域とともにある学校づくりに取り組んでいます。あなたはこの取り組みについてご存知ですか。あてはまるものに○をつけて下さい。(○は1つだけ)

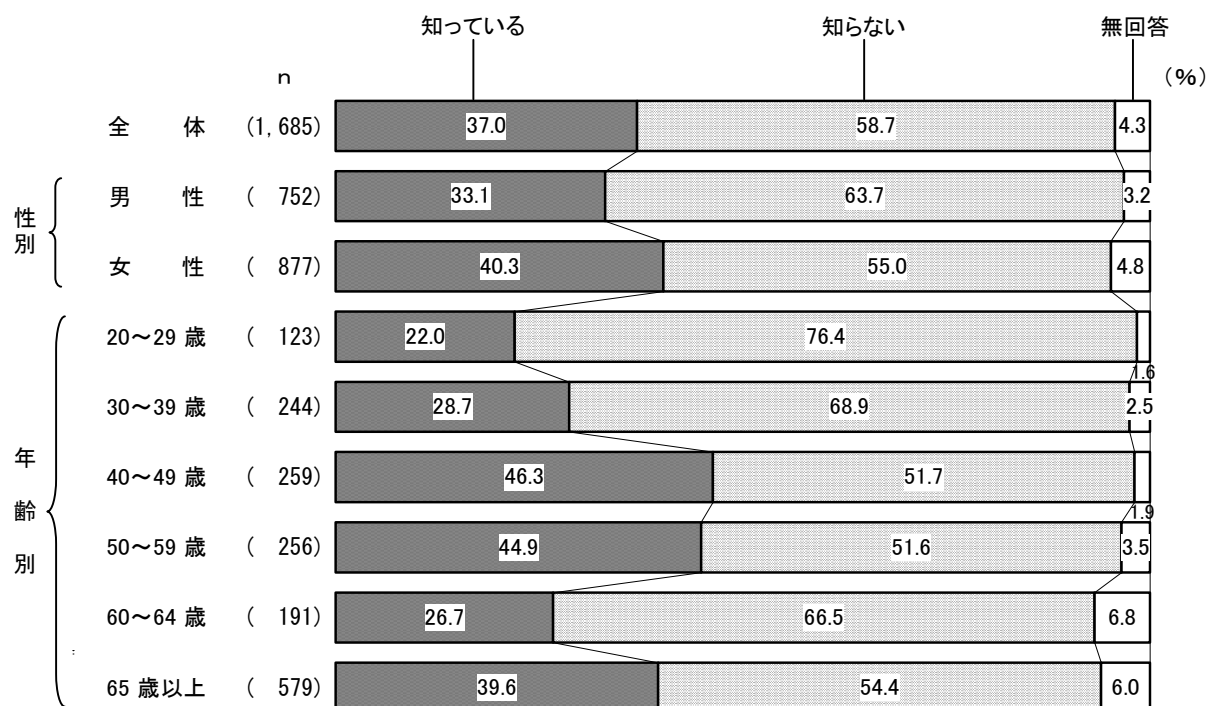
図 6-12-1



学校・家庭・地域が協働した教育活動の取り組みについて知っているかを聞いたところ、「知っている」は4割近く（37.0%）、「知らない」は6割近く（58.7%）となっている。

（図 6-12-1）

図 6-12-2 学校・家庭・地域が協働した教育活動の周知度－性別・年齢別

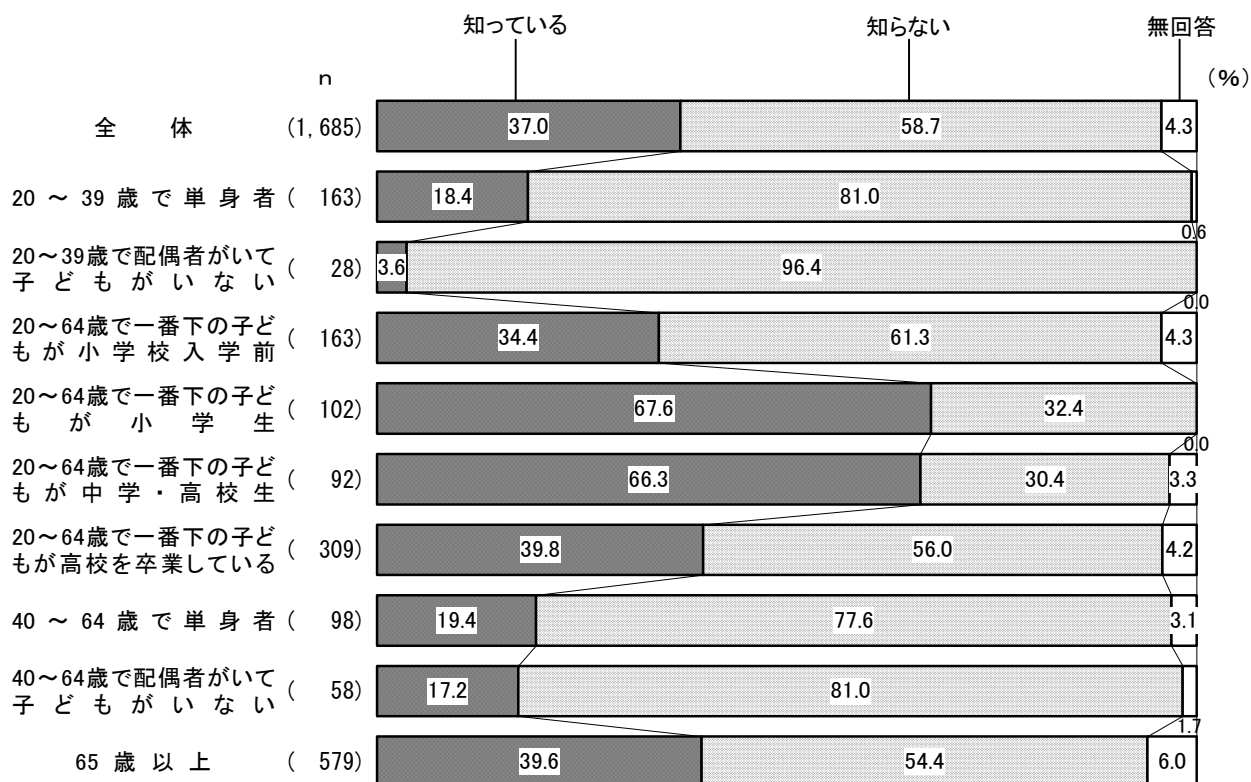


性別にみると、「知らない」は男性が8.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「知らない」は20～29歳で8割近く（76.4%）と高くなっている。

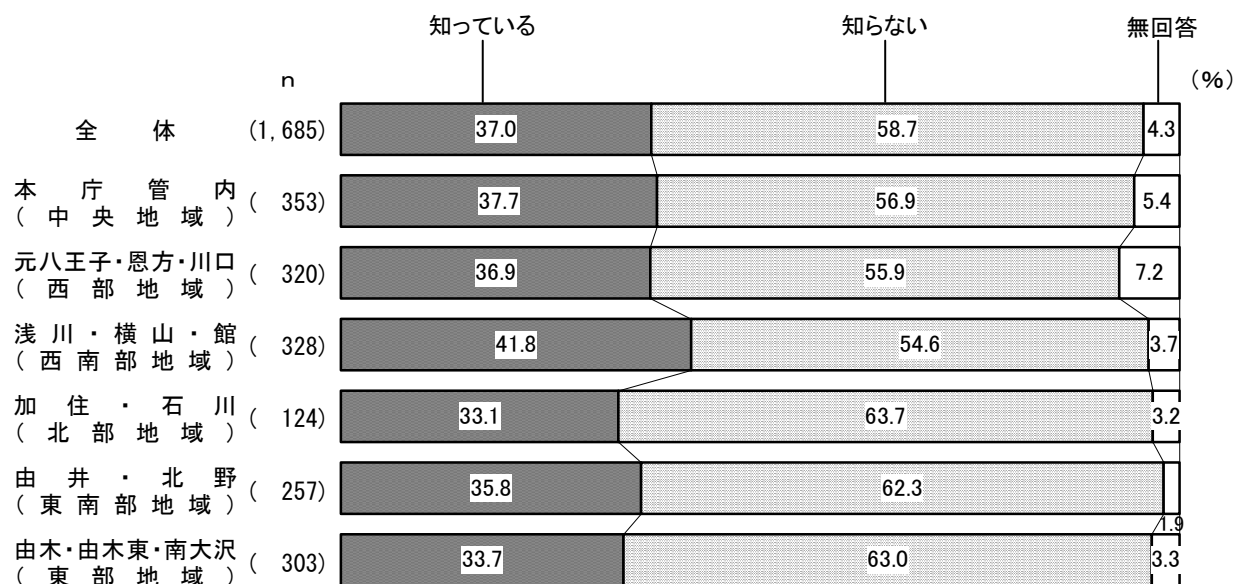
（図 6-12-2）

図6-12-3 学校・家庭・地域が協働した教育活動の周知度－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「知っている」は“20～64歳で一番下の子どもが小学生”（67.6%）と“20～64歳で一番下の子どもが中学・高校生”（66.3%）で7割近くと高くなっている。（図6-12-3）

図6-12-4 学校・家庭・地域が協働した教育活動の周知度－居住地域別



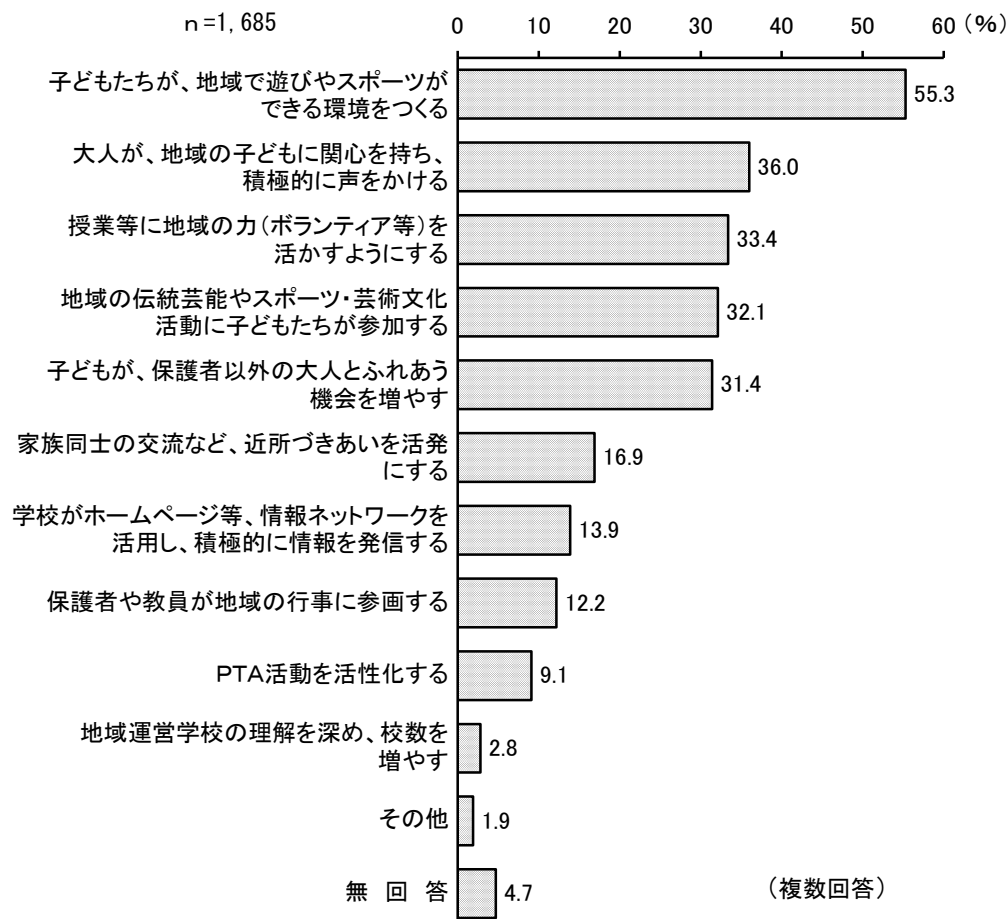
居住地域別にみると、「知っている」は浅川・横山・館（西南部地域）で4割強（41.8%）と高くなっている。（図6-12-4）

6-13 学校・家庭・地域のつながりを深める上で重要なこと

◇「子どもたちが、地域で遊びやスポーツができる環境をつくる」が5割台半ば

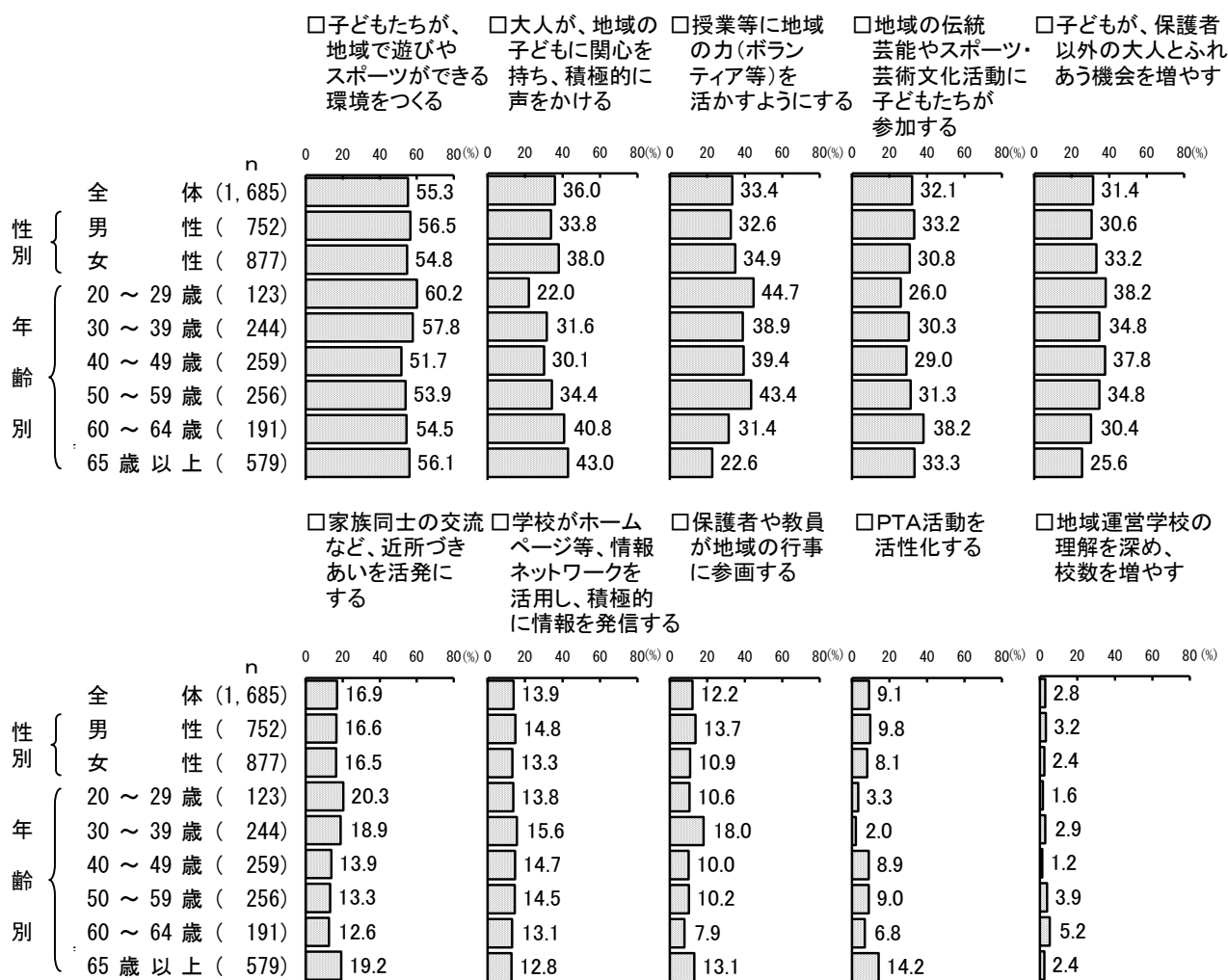
問18 学校と家庭と地域のそれぞれのつながりを深めるために、どのようなことが重要であると思いますか。あなたの考えに近いものを選び○をつけて下さい。(○は3つまで)

図 6-13-1



学校・家庭・地域のつながりを深める上で重要なことを聞いたところ、「子どもたちが、地域で遊びやスポーツができる環境をつくる」が5割台半ば(55.3%)と最も高く、次いで「大人が、地域の子どもに関心を持ち、積極的に声をかける」(36.0%)、「授業等に地域の力(ボランティア等)を活かすようにする」(33.4%)、「地域の伝統芸能やスポーツ・芸術文化活動に子どもたちが参加する」(32.1%)、「子どもが、保護者以外の大人とふれあう機会を増やす」(31.4%)と続いている。(図 6-13-1)

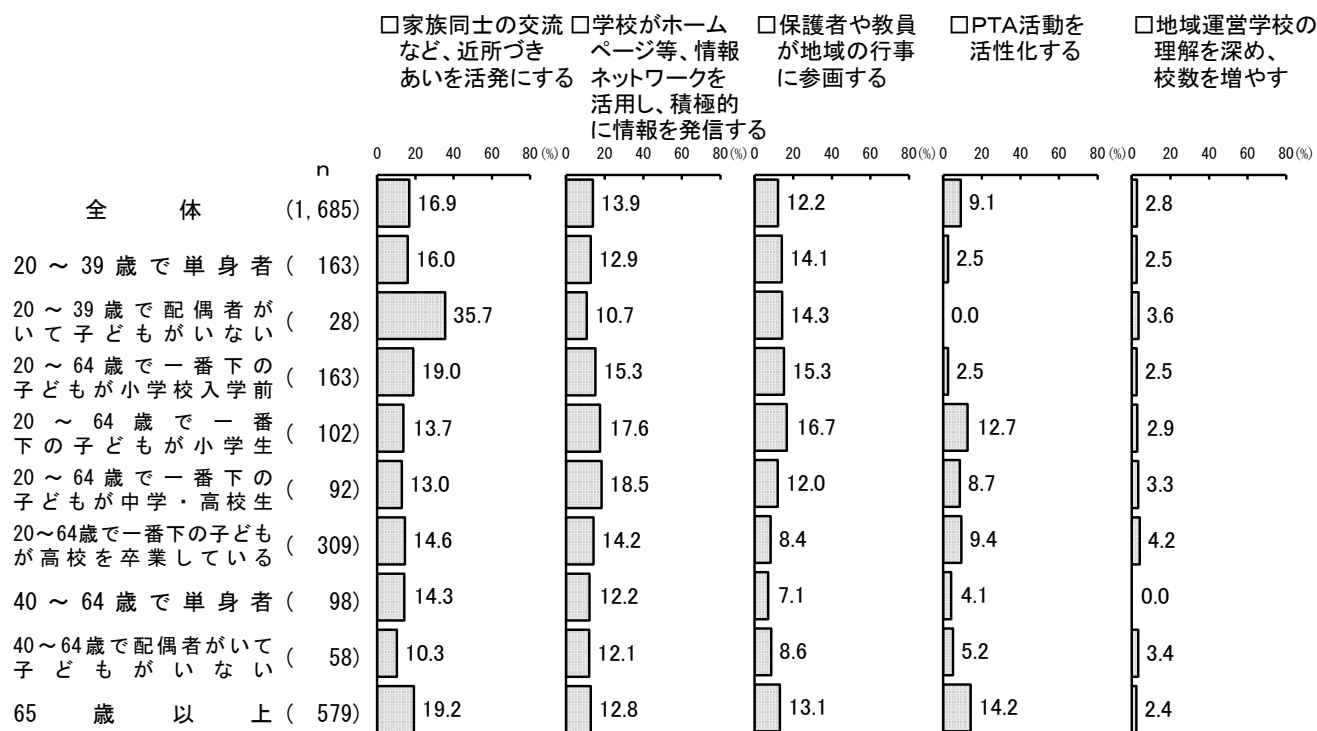
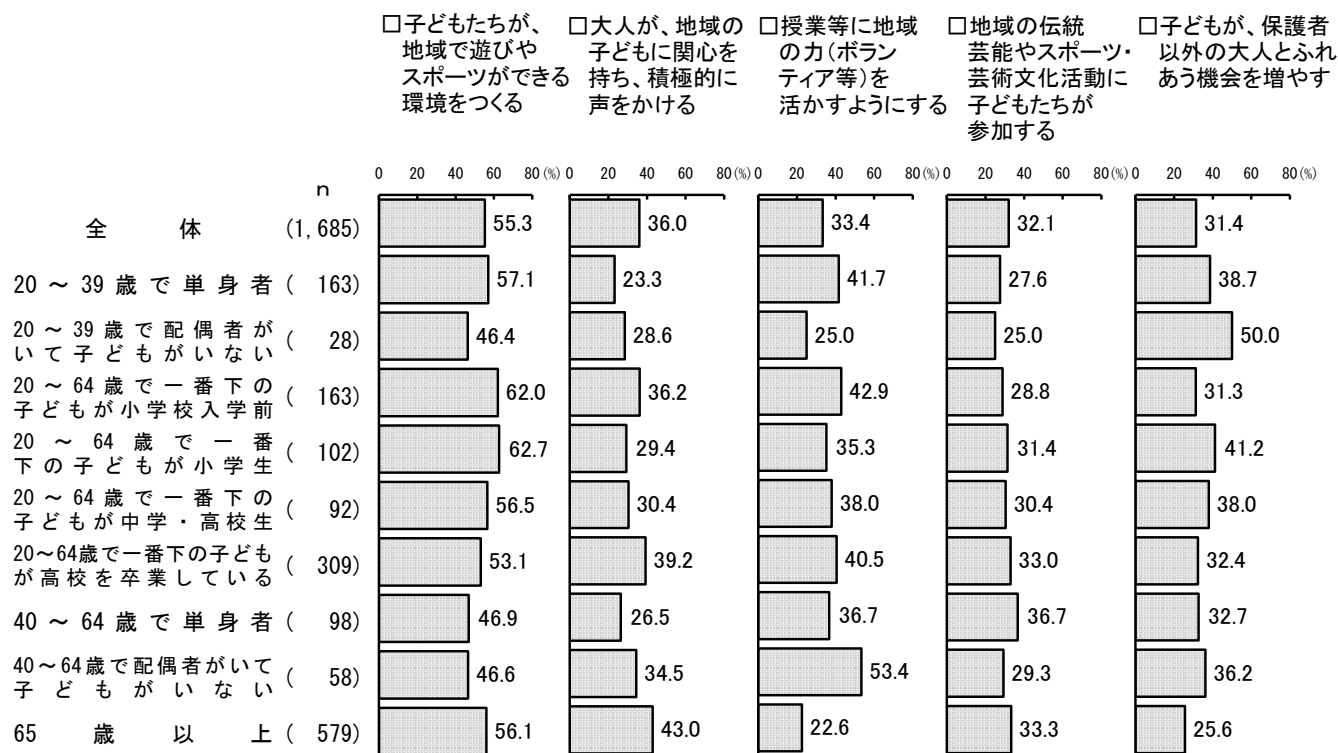
図6-13-2 学校・家庭・地域のつながりを深める上で重要なこと－性別・年齢別



性別にみると、「大人が、地域の子どもに関心を持ち、積極的に声をかける」は女性が4.2ポイント高くなっている。一方、「保護者や教員が地域の行事に参画する」は男性が2.8ポイント高くなっている。

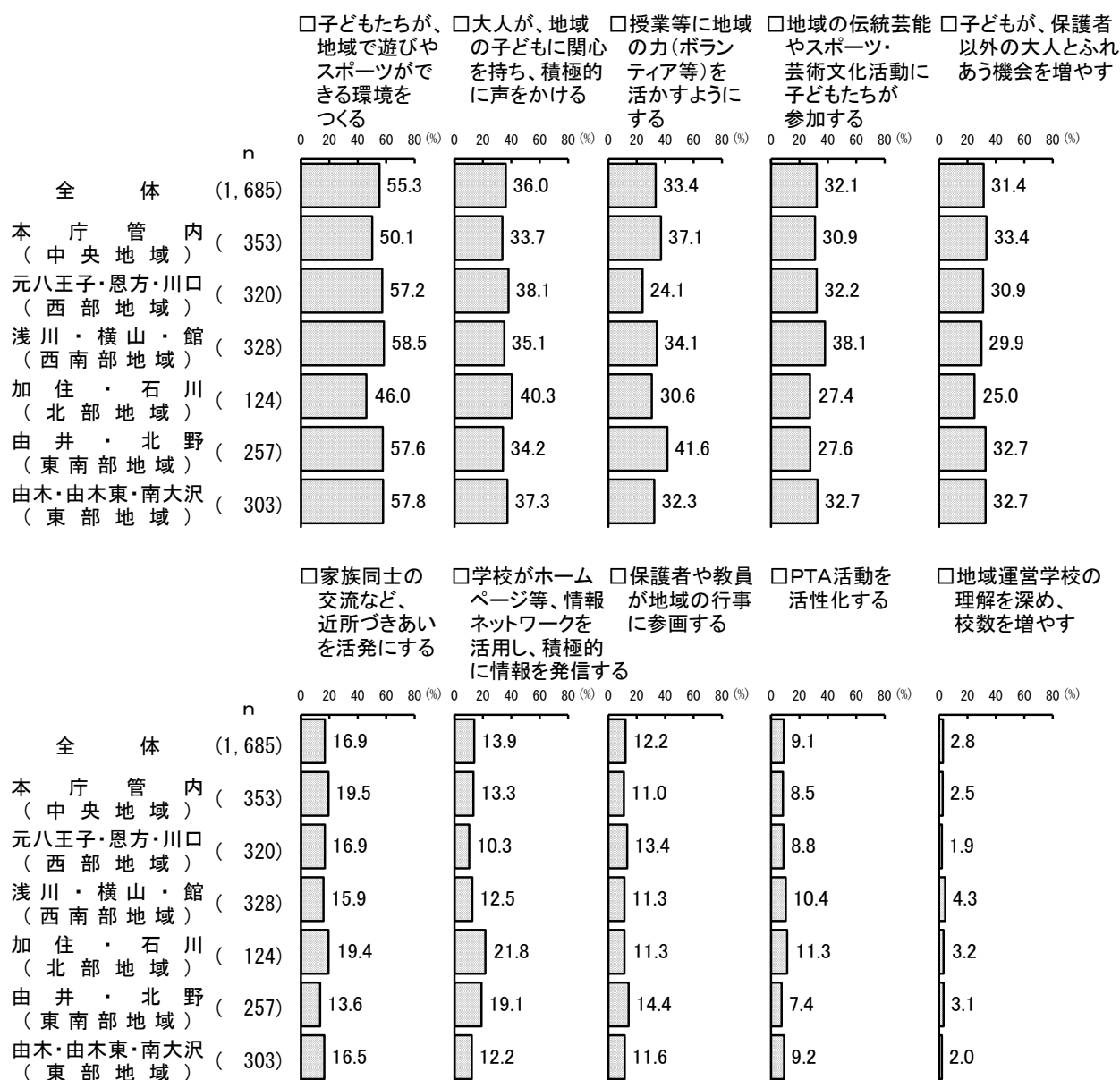
年齢別にみると、「大人が、地域の子どもに関心を持ち、積極的に声をかける」はおおむね年代が上がるにつれて割合が高く、65歳以上で4割強（43.0%）と高くなっている。また、「子どもが、保護者以外の大人とふれあう機会を増やす」はおおむね年代が下がるにつれて割合が高く、20～29歳で4割近く（38.2%）と高くなっている。（図6-13-2）

図6-13-3 学校・家庭・地域のつながりを深める上で重要なこと—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「子どもたちが、地域で遊びやスポーツができる環境をつくる」は“20～64歳で一番下の子どもが小学生”（62.7%）と“20～64歳で一番下の子どもが小学校入学前”（62.0%）で6割強と高くなっている。また、「授業等に地域の力（ボランティア等）を活かすようにする」は“40～64歳で配偶者がいて子どもがいない”で5割強（53.4%）と高くなっている。（図6-13-3）

図6-13-4 学校・家庭・地域のつながりを深める上で重要なこと－居住地域別



居住地域別にみると、「子どもたちが、地域で遊びやスポーツができる環境をつくる」はどの地域もおおむね5割台となっている。また、「地域の伝統芸能やスポーツ・芸術文化活動に子どもたちが参加する」は浅川・横山・館（西南部地域）で4割近く（38.1%）と高くなっている。

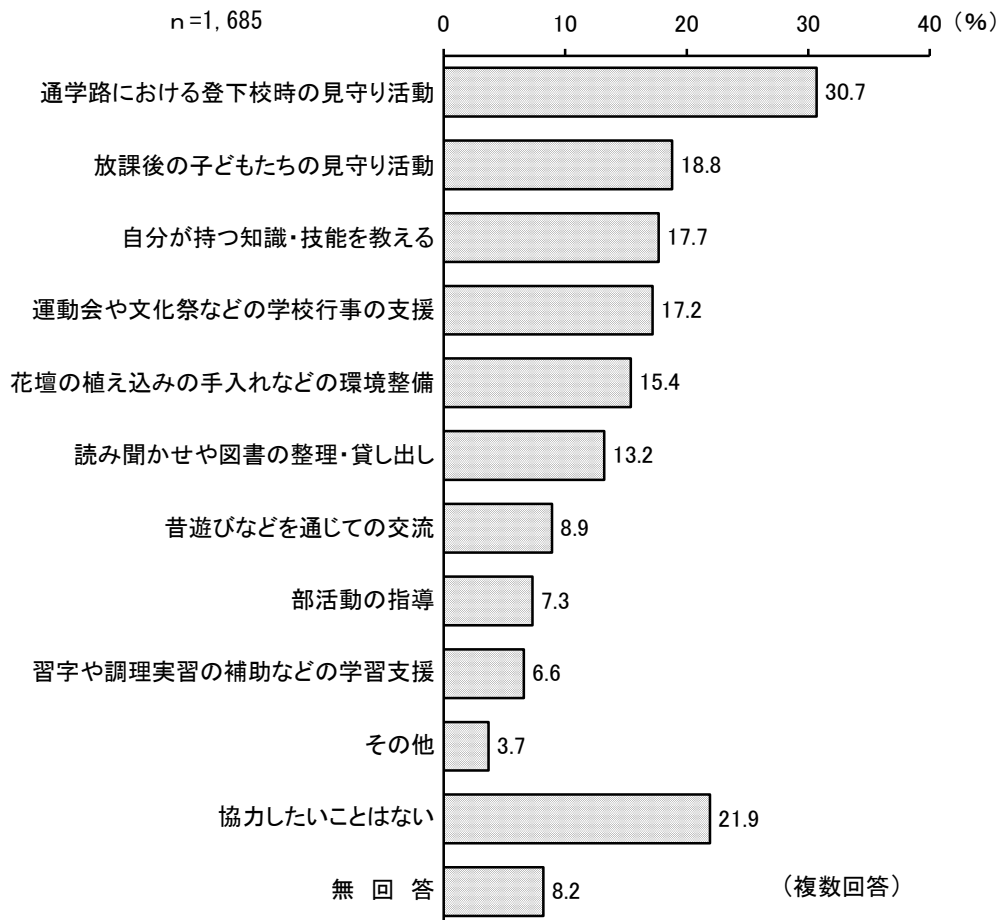
（図6-13-4）

6-14 地域の学校に協力してみたい（している）こと

◇「通学路における登下校時の見守り活動」が約3割

問19 あなたが、今後地域の学校に対して協力してみたいと思う（現在協力している）ことはどんなことですか。あてはまるものに○をつけて下さい。（○はいくつでも）

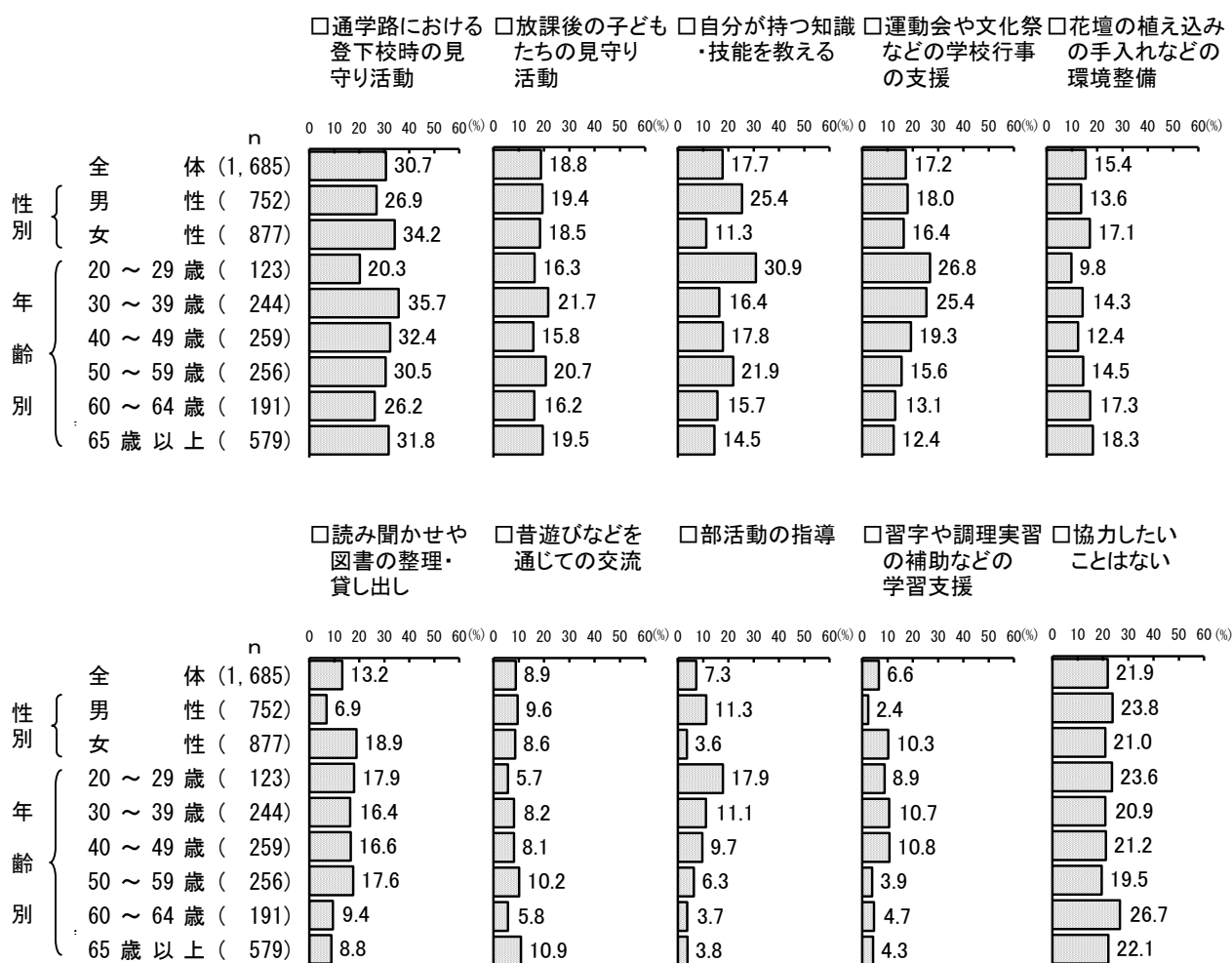
図6-14-1



地域の学校に対して協力してみたい（している）ことを聞いたところ、「通学路における登下校時の見守り活動」が約3割（30.7%）と高く、次いで「放課後の子どもたちの見守り活動」（18.8%）、「自分が持つ知識・技能を教える」（17.7%）、「運動会や文化祭などの学校行事の支援」（17.2%）、「花壇の植え込みの手入れなどの環境整備」（15.4%）と続いている。

(図6-14-1)

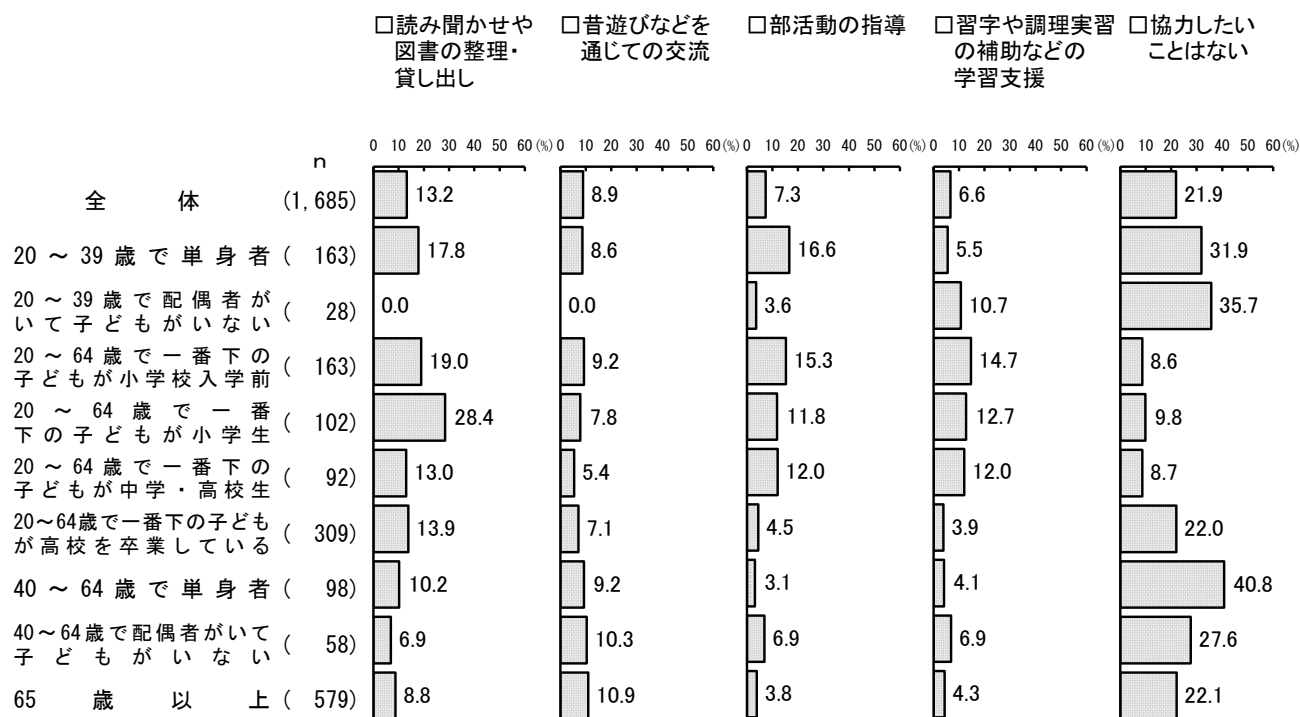
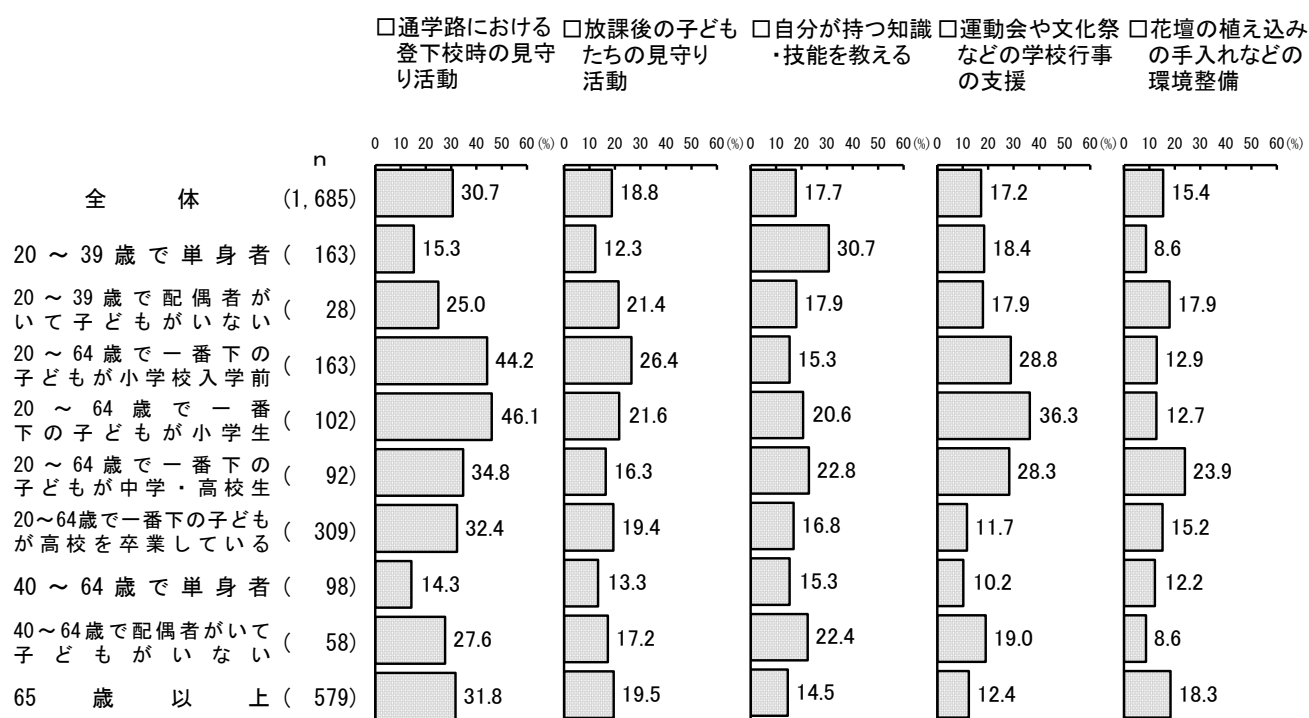
図6-14-2 地域の学校に協力してみたい（している）こと－性別・年齢別



性別にみると、「自分が持つ知識・技能を教える」は14.1ポイント、「部活動の指導」は7.7ポイント、それぞれ男性が高くなっている。一方、「読み聞かせや図書の整理・貸し出し」は12.0ポイント、「習字や調理実習の補助などの学習支援」は7.9ポイント、「通学路における登下校時の見守り活動」は7.3ポイント、それぞれ女性が高くなっている。

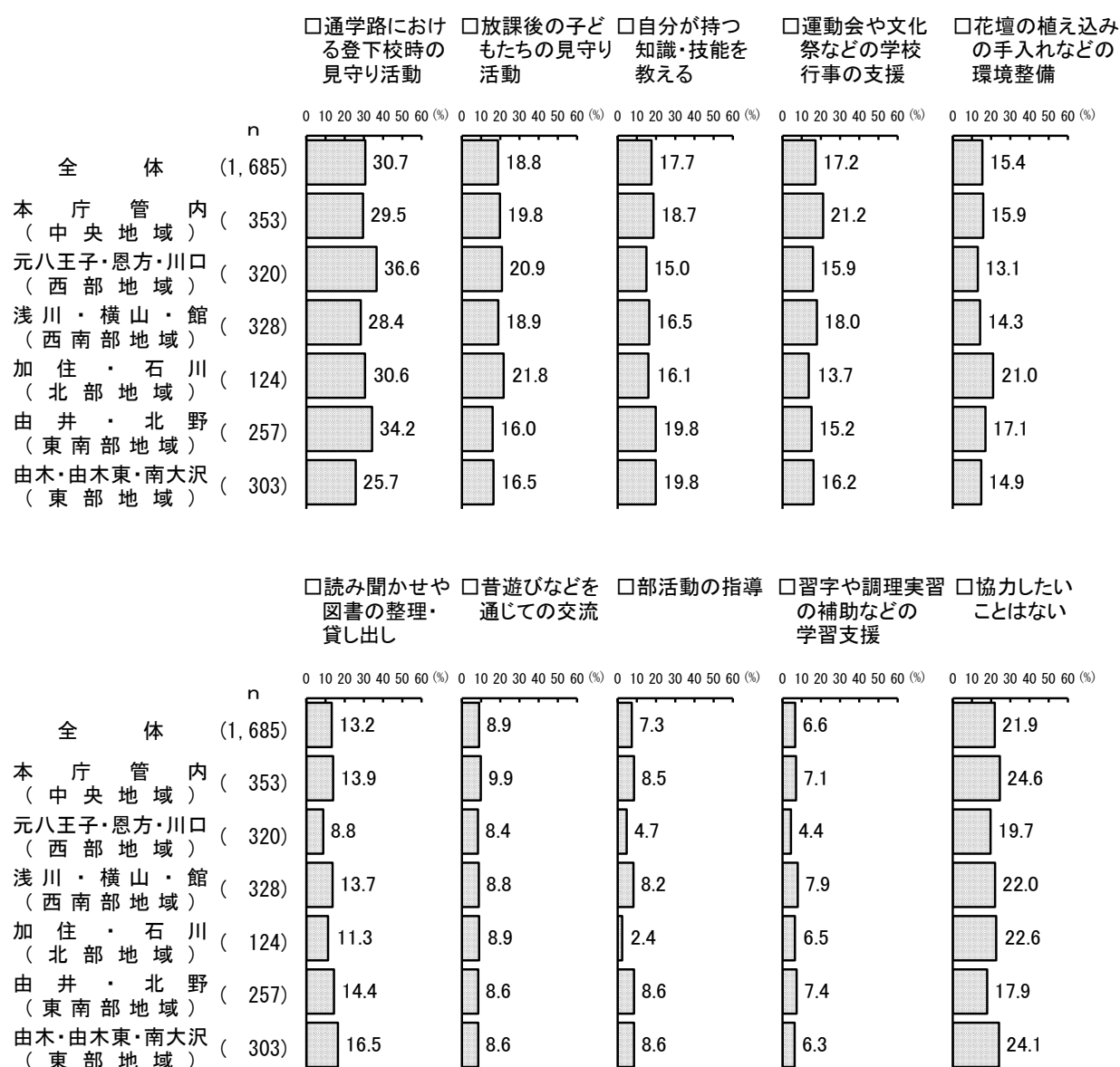
年齢別にみると、「自分が持つ知識・技能を教える」は20～29歳で約3割（30.9%）と高くなっている。また、「運動会や文化祭などの学校行事の支援」は年代が下がるにつれて割合が高く、20～29歳で3割近く（26.8%）となっている。（図6-14-2）

図6-14-3 地域の学校に協力してみたい(している)こと—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「運動会や文化祭などの学校行事の支援」は“20～64歳で一番下の子どもが小学生”で4割近く(36.3%)と高くなっている。また、「自分が持つ知識・技能を教える」は“20～39歳で単身者”で約3割(30.7%)と高くなっている。(図6-14-3)

図 6-14-4 地域の学校に協力してみたい（している）こと－居住地域別



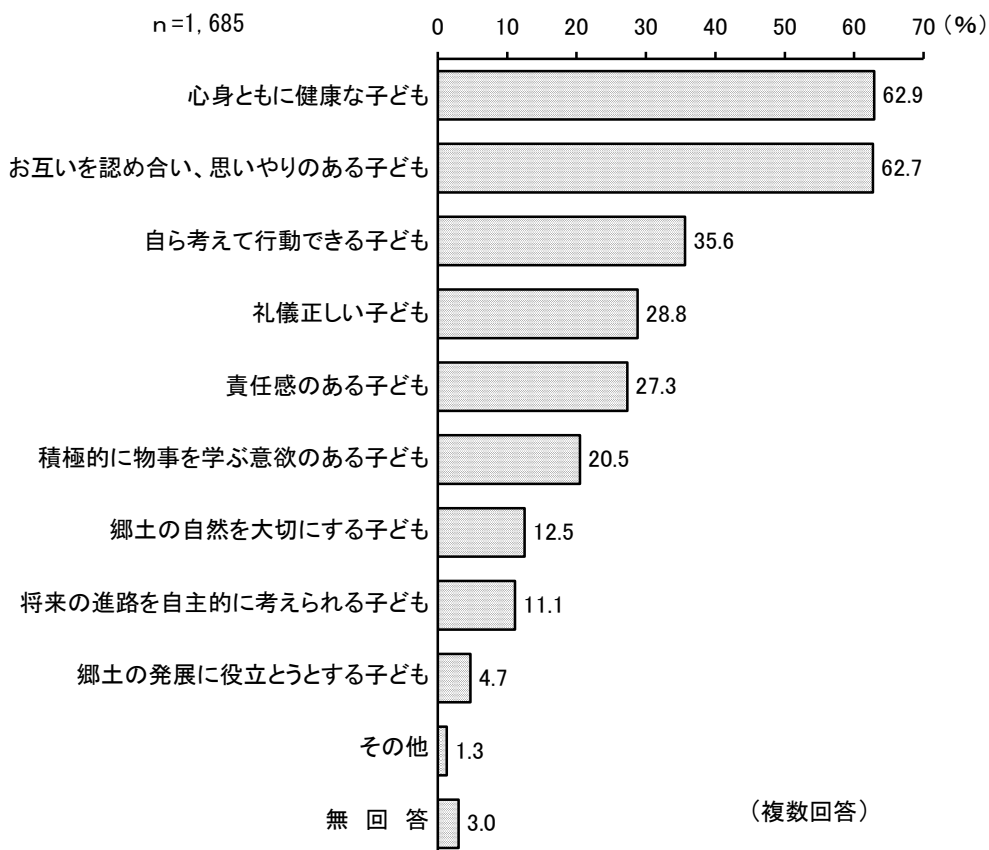
居住地域別にみると、「通学路における登下校時の見守り活動」は元八王子・恩方・川口（西部地域）で4割近く（36.6%）と高くなっている。（図 6-14-4）

6-15 八王子の子どもに望む育ち方

◇「心身ともに健康な子ども」、「お互いを認め合い、思いやりのある子ども」が
6割強

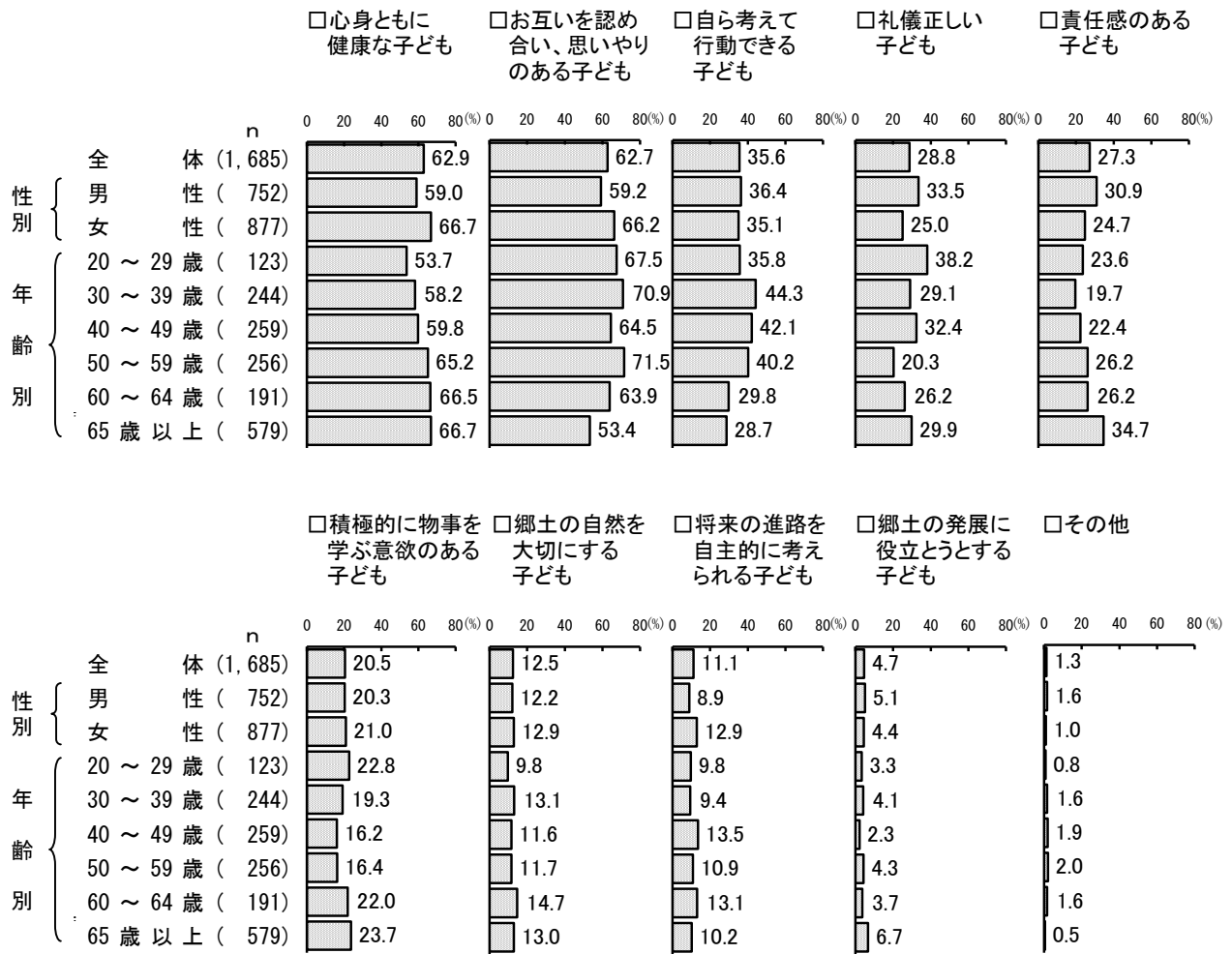
問20 あなたは八王子の子どもたちがどのような子どもに育ってほしいと思いますか。あなたの考えに近いものを選び○をつけて下さい。(○は3つまで)

図6-15-1



八王子の子どもたちがどのような子どもに育ってほしいかを聞いたところ、「心身ともに健康な子ども」が6割強(62.9%)と最も高く、次いで「お互いを認め合い、思いやりのある子ども」(62.7%)、「自ら考えて行動できる子ども」(35.6%)、「礼儀正しい子ども」(28.8%)、「責任感のある子ども」(27.3%)と続いている。(図6-15-1)

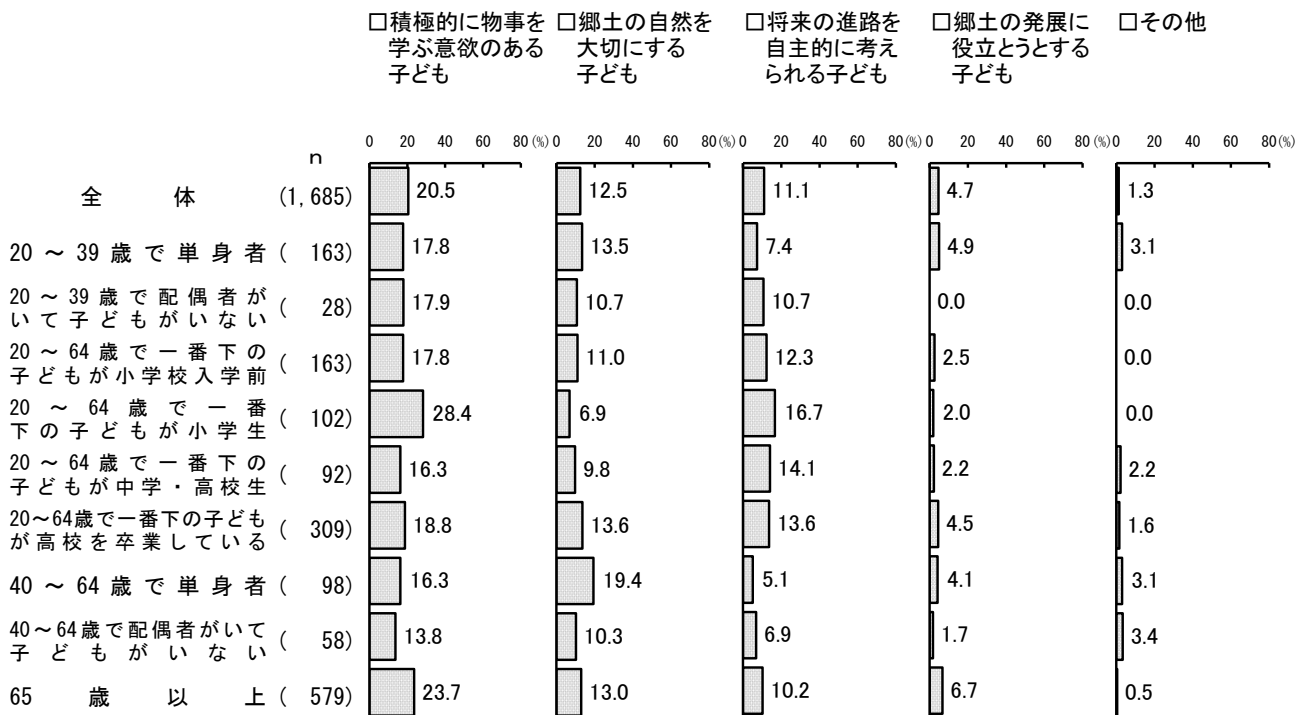
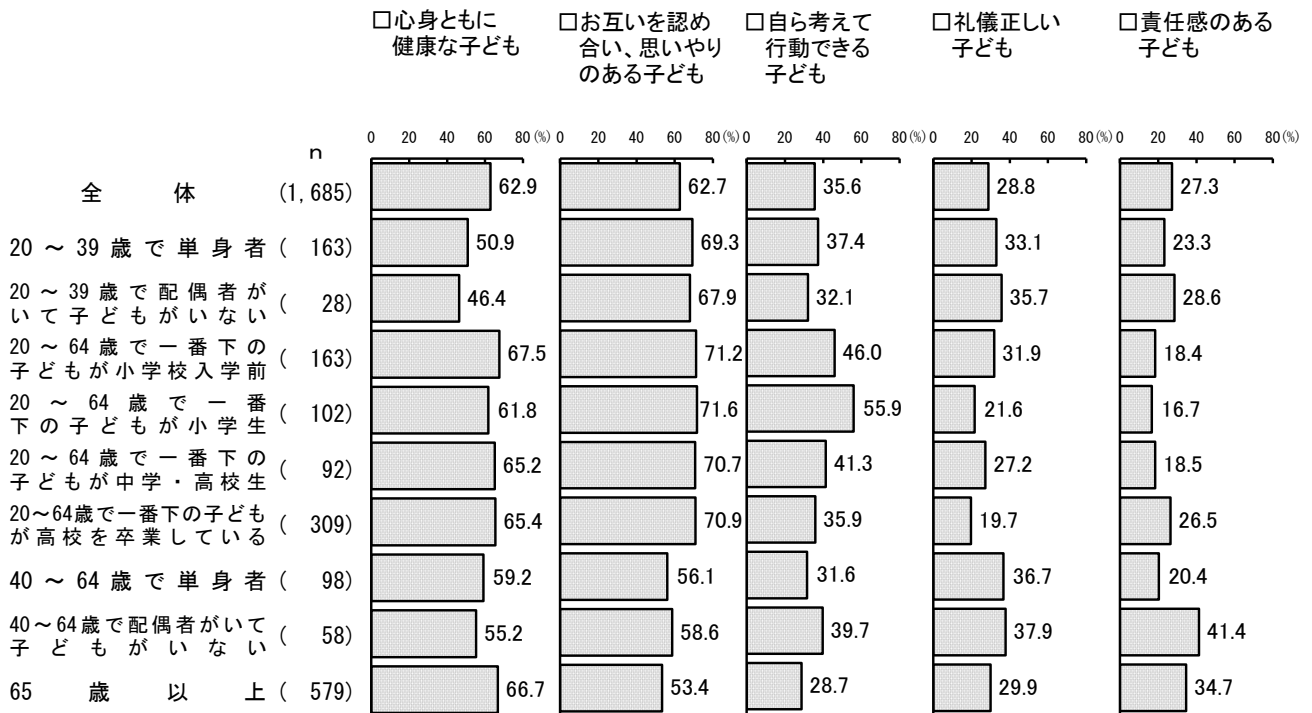
図6-15-2 八王子の子どもに望む育ち方—性別・年齢別



性別にみると、「礼儀正しい子ども」は8.5ポイント、「責任感のある子ども」は6.2ポイント、それぞれ男性が高くなっている。一方、「心身ともに健康な子ども」は7.7ポイント、「お互いを認め合い、思いやりのある子ども」は7.0ポイント、それぞれ女性が高くなっている。

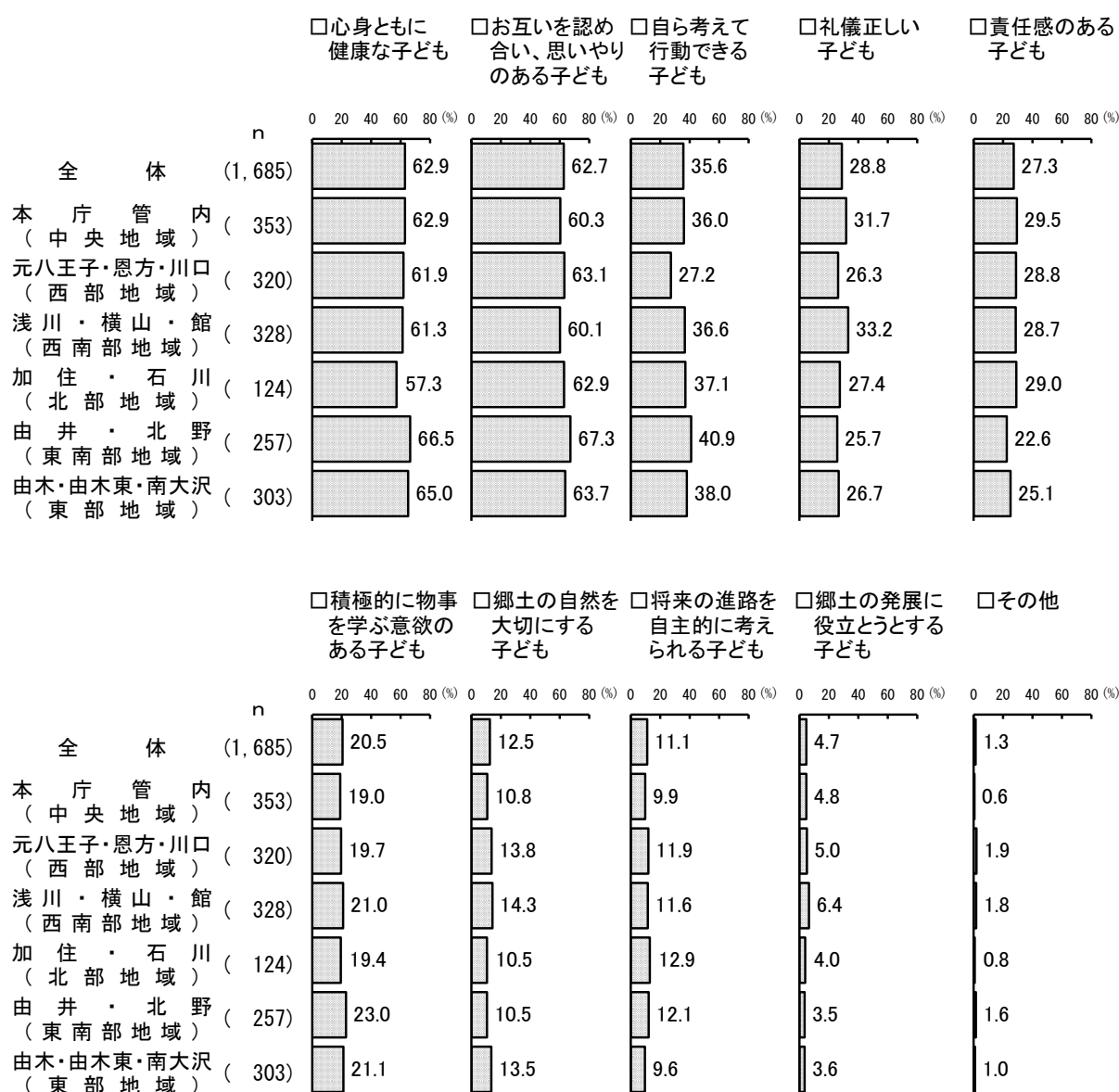
年齢別にみると、「心身ともに健康な子ども」は年代が上がるにつれて割合が高く、65歳以上で7割近く（66.7%）と高くなっている。また、「礼儀正しい子ども」は20～29歳で4割近く（38.2%）と高くなっている。（図6-15-2）

図6-15-3 八王子の子どもに望む育ち方—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「自ら考えて行動できる子ども」は“20～64歳で一番下の子どもが小学生”で5割台半ば（55.9%）と高くなっている。また、「責任感のある子ども」は“40～64歳で配偶者がいて子どもがいない”で4割強（41.4%）と高くなっている。（図6-15-3）

図6-15-4 八王子の子どもに望む育ち方―居住地域別



居住地域別にみると、「心身ともに健康な子ども」、「お互いを認め合い、思いやりのある子ども」はどの地域もおおむね6割台となっている。(図6-15-4)